都留文科大学 同窓会報

第43号会報

発　行　都留文科大学同窓会事務局
責任者　渡邉正司
山梨県都留市田原３-８-１
☎0554-43-4341

三つ峠から望む富士山

同窓會
都留文科大學

同窓会長２年目・・・感謝

都留文科大学同窓会会長

笹本　忠彦

令和５年８月に同窓会会長を拝命し、約１年半が過ぎ、早くも任期は折り返しを過ぎました。この間、全国各支部の総会・懇親会にお声掛けいただいたことに「感謝」しております。山梨県支部を始め、神奈川県支部（飛翔の会）、宮城県支部、長野県支部、奈良県支部等、日程調整できうる限り支部の様子を伺いに参列させていただきました。その都度、「大学愛・都留文プライド」の話題に加え、「全国の支部があってこその本部であり、支部の活動があってこそ同窓会の活気に繋がる。支部総会への参加者数の推移も気になりますが、それ以上に継続的・計画的な発展が大切」とお伝えしてきました。多くの場面でご賛同いただけたことにも「感謝」しております。

私事になりますが、私自身も個人的な“同窓会”に参加しております。大学時代に意気投合した同級生が山梨・富山・静岡・大阪・長野など、全国各地で活躍しております。卒業以来36年、連絡を取り合い、顔を合わせることのできる仲間がいることに「感謝」しております。勿論、都留の地に集合した年もあります。大阪や富山を訪れた年もあります。今年度は８月に静岡の温泉に宿をとり開催いたしました。年に一度の楽しみで、都留での学生時代を思い出しながら、一晩中たわいもない話に花を咲かせます。話題はその世代を反映していました。30代は「子育て」、40代は「子どもの進学先・就職先」、50代では「服用しはじめた薬?」が中心でした。しかし今年度59歳組の私たちの話題は、専ら「定年後どうする?」という話題で持ちきりでした。一般的には、60歳誕生日＝退職日という企業も多く、退職日までを逆算し有給休暇を消化する事例も聞きました。教員でしかも４月生まれの私は、ほぼ61歳まで「働かせ放題」の現状に、頭の中に？マークが飛び交ったことを覚えています。光陰矢の如し、来年度は「還暦」。赤い服を着て都留に集合？なんて話題も出ました。いつまでたっても、共通の帰着点は「都留」ですね。「都留に感謝」です。

さて私事より大切な話題があります。それは母校が「創立70周年」を迎え、令和７年度に記念行事が計画されていることです。すでにロゴマークも決定し、記念グッズの商品開発も進んでいます。更に、記念講演やキャンパス内ツアーの企画もあります。同窓会としても協賛しておりますので、記念事業に一人でも多くの同窓生にご参加いただき、母校の現状を見聞し、「大学愛」を深めていただければ幸いです。70周年という記念すべき節目が、この後の大きな飛躍への第一歩となることを期待しております。

結びになりますが、本会が全国約４万人の同窓生の皆様にとって、生涯を通じて交流できる場となりうるよう、またこれまで以上に母校の発展を後押しできるよう、今後ともご理解、ご協力をお願い申し上げ、同窓会長２年目の「感謝と挨拶」とさせていただきます。

都留文科大学同窓会役員

役職名	氏名	卒科
名誉会長	加藤敦子	学長
会長	笹本忠彦	S62英
副会長	桐井幸雄	S32初
	杉中康平	S59初
	渡邉正司	S63初
	小山田拓也	H06初
庶務会計	小口尚良	S60初
	原田裕太	H07初
	鈴木いづみ	大学総務課長補佐
事務局長	奥脇美穂	H01初
事務局次長	浜欠亮吉	S39国
	外川正純	S46英
	梶原裕一郎	H12初
監事	淡野香百合	S39初
	相川洋子	S52英
理事（支部長） 北海道支部長	照山秀一	H01初
青森県支部長	遠藤ゆみ子	S63初
岩手県支部長	髙橋節夫	S56英
宮城県支部長	片岡有吾	S63初
山形県支部長	渡邉　隆	H04初

役職名	氏名	卒科
理事（支部長） 茨城県支部長	長岡省一	S55英
栃木県支部長	平野見一	S54英
群馬県支部長	齋木雄造	S52国
埼玉県支部長	西　敬	S56初
千葉県支部長	川名和則	S51英
東京都支部長	松本多加志	S44初
神奈川県支部長	山田節朗	S45初
新潟県支部長	池原栄一	S50初
富山県支部長	杉高　浩	S63初
石川県支部長	中川　岳	S54初
福井県支部長	山本貞郎	H02初
山梨県支部長	輿石　務	S52初
長野県支部長	市村一彦	S63初
岐阜県支部長	香田静夫	S60初
静岡県支部長	臼井　泰	S46国
愛知県支部長	加藤俊行	S63初
三重県支部長	田畑繁行	S53初
滋賀県支部長	松嶋孝雄	S46初
京都府支部長	枡谷雄三	S44初
大阪府支部長	藤田明彦	S57初

役職名	氏名	卒科
理事（支部長） 兵庫県支部長	高谷和久	S43初
奈良県支部長	岡田善英	S45初
和歌山県支部長	谷口博保	S51初
鳥取県支部長	西田智貴	S60初
島根県支部長	小藤　貢	S44初
岡山県支部長	関野茂夫	S58初
広島県支部長	中西正一	S41初
徳島県支部長	小倉健司	S53英
愛媛県支部長	谷川忠孝	S42初
高知県支部長	前田志郎	S48初
長崎県支部長	平山繁壽	S44初
熊本県支部長	杉水　修	S61初
宮崎県支部長	取附義弘	S51初
鹿児島県支部長	本田武久	S43国
沖縄県支部長	比嘉正夫	S53英
理事 北海道	加藤佳栄	S55英
東北ブロック理事	鎌田　清	S47初
兵庫県	赤穂榮一	S40英
	篠原利明	S63初
	雨宮義仁	S57英

役職名	氏名	卒科
理事	浅川孝夫	S53英
	中山栄二	S55初
	小沢愼太郎	H06初
	平井昌秀	S59初
	諏訪桂一	S57国
	千野文雄	S48英
	藤森　勇	S53初
	石井正己	S51初
顧問	後藤　敬	S33商
	佐藤英雄	S38国
	輿石　東	S32初
	山縣永良	S39国
	勝俣武男	S41初
	永田清一	S46国
	千野文雄	S48英
	亀田孝夫	S51英
	原　喜雄	S53初
	加藤一雄	S53初
	柏木精一	S57初
	河端雄一	S63初

令和7年2月1日現在

皆様と共に迎える70周年

都留文科大学学長

加藤　敦子

都留文科大学は令和7年（2025年）に創立70周年を迎えます。前身である山梨県立臨時教員養成所を承け、昭和30年（1955年）に都留市立短期大学として創設された本学は、以来幾多の時代を経ながら、教員養成を礎とする理念を掲げ続けてきました。創設当初より、日本各地から集った学生たちが都留の地で学び、卒業後はそれぞれの志を胸に、故郷や新天地においてその理想を実現していくという大学のあり方は、今もなお変わることなく続いています。これも、70年の長きに渡り、同窓生の皆様方が日本の津々浦々で、また、世界各地でご活躍下さっているお陰です。心より御礼申し上げます。

学長任期2年目の今年度は、栃木県、長野県、奈良県、京都府、宮城県の同窓会支部総会・懇親会にお招きいただきました。何う先々で、同窓生の皆様方の大学への想いに接し、また、大学のため、後輩たちのために何ができるかを熱心に考えて下さっているお姿を目の当たりにして、深い感動を覚えるとともに、学長として身の引き締まる思いをいたしております。

現代の日本は世界でも類を見ない少子高齢化が急速に進行しており、大学も18歳人口の減少という厳しい現実に直面しています。本学もまた、大学の存続と発展をかけて、その社会的役割、教育理念、運営組織を見つめ直し、「選ばれる大学」としての魅力をさらに磨き上げていく必要があります。

こうした課題を抱える中で迎える70周年は、本学にとって教育の質を一層高め、その魅力を内外に発信する絶好の機会であると捉えております。この記念すべき年を、在学生、教職員、同窓生、そして地域の皆様が一体となって祝うものとするため、多彩な記念事業を企画しています。その先駆けに掲げたコンセプトコピー「色とりどりのミライへ。」には、学生、教職員、同窓生、地域社会がそれぞれに多様な輝きを放ちつつ、大学を彩り、未来へと歩んでいくという願いを込めています。70周年記念ロゴは、複数の候補の中から学生の人気投票をもとに選定された、学生参加企画でもあります。

4月に竣工する「つるフィールド・ミュージアム」では、地域の方々に開かれた場として、さらなる地域交流事業を推進していく予定です。また、1号館の大規模改修では、工事着手に先立って4月20日に「ホームカミングデイ」を開催し、同窓生の皆様に思い出深い1号館校舎を訪れていただく機会を設けます。10月にはロバート・キャンベル氏を講師としてお迎えして、記念式典を行う予定です。同窓生の皆様方には、ぜひこれらの機会に都留にお運びいただき、大学時代の思い出や母校への想いを、現在の在学生にお伝えいただきたいと思っております。

都留文科大学は、これからも同窓生の皆様方とともに歩んでまいります。今後とも、本学の教育・研究・運営に対し、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和６年度　都留文科大学同窓会都道府県別会員数

No	県　名	会員数	No	県　名	会員数	No	県　名	会員数	No	県　名	会員数
1	北海道	639	13	東京都	1,383	25	滋賀県	108	37	香川県	159
2	青森県	281	14	神奈川県	1,284	26	京都府	262	38	愛媛県	372
3	岩手県	717	15	新潟県	683	27	大阪府	458	39	高知県	87
4	宮城県	624	16	富山県	745	28	兵庫県	832	40	福岡県	218
5	秋田県	285	17	石川県	659	29	奈良県	92	41	佐賀県	82
6	山形県	414	18	福井県	573	30	和歌山県	211	42	長崎県	241
7	福島県	757	19	山梨県	4,171	31	鳥取県	157	43	熊本県	182
8	茨城県	555	20	長野県	1,386	32	島根県	225	44	大分県	113
9	栃木県	547	21	岐阜県	617	33	岡山県	435	45	宮崎県	156
10	群馬県	448	22	静岡県	1,817	34	広島県	495	46	鹿児島県	351
11	埼玉県	564	23	愛知県	1,218	35	山口県	158	47	沖縄県	261
12	千葉県	613	24	三重県	430	36	徳島県	461	48	外国・不明等	12,237

合　計	39,763

県支部設立済都道府県

令和7年1月1日現在

変化と対応

都留文科大学退官教授
学校教育学科
加藤　優

58歳にして都留文科大学に赴任し、その歴史をほとんど知らないまま退職を迎えることになりました。「都留文」といえば、富士山に近い小さな町の大学。市の人口の1割が学生という環境。その多くは県外者で独特のコミュニティで学生が密な生活をしている、そんな印象でした。でも、地方都市の大学でありながら全国区であり、卒業生のうち3割近くが教育にかかわっていること。また多くは地元に戻り活躍していて、その流れが70年近くも続いているという、全国でも稀有な大学であり続けていることに驚かされました。

そんな私が過ごした8年間は、大学の歴史のなかでも、まさに「変化と対応」の日々だったと思います。学部・学科構成も大きく変わり、そのたびにカリキュラムも大きく変わったことを考えると大学の変換点にいたのだと感じます。

加えて新型コロナの影響は私たちの生活そのものを急激に変え、教職員も学生も戸惑いと不安のなかで対応した日々でした。

そこであらためて思ったのは、これまでもそうだったように一つ一つの時間の積み重ねが伝統を作り出していき、そのときどきの変化と対応のなかで新たな歴史が刻まれてきたのだということです。

今の学生は「Z世代」と呼ばれていますが、スマホは生まれたときからあるのに、そこに示されている受話器マークは知らない世代。加えてオンラインでの対応や授業が当たり前となっている現実。ここで大きくクローズアップされたのが「対面」という言葉でした。人と人が面と向かい合って言葉や意見を交わしながら思いを伝えあっていた面授が「普通」ではなくなりました。

教育には時代とともに変わっていくものと変えてはいけないものがあるように思います。わからないことは「調べる」ことからプロンプトを使って「聞くこと」に代わってきています。「10年ひと昔」は、今は「1年前のこと」が古くなっている時代。時間の流れのなかで変わることは大切ですが、人と人とが集い顔を合わせ密に寄り添いながら時代を紡いでいく。いつまでもそんな「都留文」であってほしいと願います。

『都留』に包まれて

都留文科大学退官教授
学校教育学科
筒井　潤子

大学からの愛情を力に

先日、「ここまでやるんですか」と、驚きを伝えてくださった新着任の先生の笑顔に、私は思わず「そうなんです。文大って、ここまでやるんです」と嬉しくなって答えました。教職員の学生対応に接してのやり取りでした。でもそれはけして「過保護」ではなく、学生たちは大学からたくさんの愛情をもらって自立していきます。ゼミの学生たちの口からは、他の先生方だけでなく事務の方々や各センターのお名前がしばしば登場します。こんなにたくさんの人々に直接かかわってもらっているんだなあと感心しながら、そういう関係性を眺めている私も穏やかで温かな思いになっていました。

地域に張り巡らされた網目

「ここまでやるんですか」という温かさは、学内だけではありませんでした。地域の学校の先生方をはじめ教育委員会や福祉など支援機関の方々、さまざまな地域のみなさんが一人の子どもさんをめぐって、その苦しさに心を寄せ頭を悩ませ、四苦八苦しながらもあきらめることなく一緒にその支援を考えあう姿が、あちこちにありました。私は、その「都留愛」に圧倒されることもしばしばでした。『都留』のなかに、温かい支援の網目が細かく張り巡らされているかのように感じてきました。

網目の中に溶け込む大学

その『都留』の中に、大学は境界線がぼんやりするほどしっくり馴染んでいるように感じました。小学校の教室に学生が当たり前のように入り、先生方や子どもたちとの関わりから多くのことを学ばせていただいています。ただでさえ忙しい学校の中に学生を受け入れることは、想像を絶するご苦労があります。先生方の「学生さんに助けられています」という優しい言葉に甘えながらではありますが、学生たちは地域の学校現場で育てていただいているということを痛感しています。

20年前、ご縁あって大学の一員になった私は、同時に地域の一員にも加えていただき、他にはない貴重な体験をさせていただきました。みなさまへの感謝を胸に、これからの『都留』を楽しみにしています。

晴耕雨碁を楽しみに

都留文科大学退官教授
国文学科
加藤　浩司

都留文科大学には2014年から11年間お世話になりました。国語学古代語ゼミを担当、100人程の卒業生を送り出しました。優秀な方も、何とか卒業という方もいました。文学系のゼミと違い、データ集めをしないと何も言わせないゼミでしたので、皆努力だけは人一倍してくれたと思います。

自身は大学に自宅から通い、就職して初めて一人暮らしを体験しました。結婚後の単身赴任生活も含めた5年間は一通りの生きる術を身に付けさせてくれました。

皆さんの大部分は大学時代に一人暮らしをしたはず。私が遅ればせながら身に付けた生きる術を一足早く身に付けられたことでしょう。また実家を離れ山梨県都留市という土地で地元では得られなかった貴重な経験を積んだことでしょう。

都留文には全国各地から学生さんが集まっていますので、今まで名前も場所も知らなかった地域の方と親しくなり、中には一生の友（伴侶）となったケースもあるでしょう。そういう縁は簡単に得られるものではなく、遠地の大学に進学した方の特典の一つだと思います。

大学は自宅から通えるところでした（それでも通学時間は長く電車でよく本が読めました）が、その後飛騨、信州松本、大阪南河内、都留といくつかの高校・大学を転々として、様々な土地とそこの人々の暮らしを体験してきました。地方により、いろいろな慣習や文化、考え方があり、良し悪しはともかく、多様なそれらに触れられたことは、人間としての幅を拡げてくれたと思います。

地元に戻られた皆さんも、新たな土地に暮らしていらっしゃる皆さんも、都留での経験を生かし、今の土地での仕事や暮らしを、より充実した素晴らしいものにしていっていただければと思います。

体調の関係で定年より2年早く退職することにいたしました。不健康な年寄りが他の方々の足手まといになるよりも、若くて優秀な方に後を託す方が良いだろうと思いました。今後は田舎で畑付きの古い家に住み、照れば野菜作り、降ればネット碁を打つ、たまに温泉もいい、そんな老後を送れればと思います。

感謝の一言に尽きます

都留文科大学退官教授
地域社会学科
西尾　理

都留文科大学に着任できたのは、2017年４月のことでした。忘れもしない10月のある日、ダメ元で提出した公募の書類審査が通って面接に呼ばれることになりました。当時、都立高校の教員で公私とも行き詰まりを感じていました。東京を脱出したいとも思っていました。面接の電話連絡があったのが、ちょうど引っ越しのため、まずは聴かなくなったCDを大量に中古屋に売ろうと車で運んでいる最中でした。希望の光が見えました。拙ない論文を読んでもらって評価してくれたこと、面接も評価してもらえたこと、年齢（当時57歳）のこともあったのですが、思いがけず採用してもらったことは感謝してもしきれません。採用後は、西尾を引き取って良かったと思ってもらいたいという気持ちで一杯でした。今も、面接で呼ばれた時のことを、旧駐車場管理人室の前を通るとき、面接直前、本部等の事務室に行く階段を昇るときに思い出されます。

８年間はあっという間でしたが、その間、念願の専任教員として学生相手の授業ができ、自ら考えてきたことを話せたこと、ゼミをもって学生を指導できたこと、思いがけず大学院で院生を指導できたこと、こういう機会を与えてくれた都留文科大学に感謝しています。学生たちは素直な学生が多く、今までの教員生活の中で、一番ストレスレスで幸せな時間を過ごさせていただきました。今も繋がっている卒業生もいます。ありがたいことです。研究は、もう15年前から自らに課したテーマがあって、そのテーマをひとつひとつ論文にまとめていきました。単著にもしていきました。

大学も自由な雰囲気が残っており、最初に都立高校の教員になった時のことが思い出されました。この雰囲気は何物にも代えがたいと思っています。

少子化の波を受けて、これからの大学は困難が予想されます。しかし、都留市という小さな市が戦後まもなく幾多の困難を経て、このような素晴らしい大学を築き上げたこと、その先人の志を受け継いで都留文科大学がこれからも発展していくことを祈念しています。本当にありがとうございました。

都留に感謝！

学生たちとの旅の思い出

都留文科大学退官教授
比較文化学科
伊香　俊哉

「コロナ禍でヒゲを蓄えた時」

2002年４月１日に本学に助教授として着任してから22年経ったことになります。

この間の学生との印象的な交流ということでは、国内外で実施したフィールド・ワーク（FW、のちスタディ・ツアー）という学外授業になります。僕の専門が日中関係であることもあって、初のFWは2004年度に雲南省西南地区でおこないました。早稲田大学の由井正臣先生にも同行いただき、アジア太平洋戦争期の日本軍の戦跡を訪ね、少数民族の文化にもふれました。

その後カリ改訂により担当した戦争・平和論や現代世界とジェノサイドも意識して、2005年度以降のFWはアウシュビッツ平和博物館をメインに実施することが多くなりました。いわずと知れたナチス・ドイツのホロコーストを代表する絶滅収容所がアウシュビッツですが、場所はというとポーランド南部のオシフェンチムという、日本からだとちょっと行きにくいところにあります。この博物館は内容的には非常に重たいものをもっていますが、見学自体は１日に限定されてしまいます。そのためFWでは毎回、ここことヨーロッパ各地を組み合わせて見学しました。

事前学習の上で各地を見学しますが、ポーランドでは街並みを空襲被害以前の状態に完璧に再現したと言われる旧市街地を誇るワルシャワ、オーストリアでは美術館や宮殿が見学しやすい美しい観光都市でありながらも、市中心部にユダヤ人迫害のモニュメントを設けているウィーン、ドイツではザクセンハウゼン強制収容所や、ホロコーストの犠牲者とドイツの加害に眼を向ける施設を中心部に置くベルリンや、街並みの美しさが空襲の悲劇と交差するドレスデン、チェコでは街全体が強制収容所となったテレジン、旧ユダヤ人街を有し、プラハ城から市中心部へ下る道からの眺望が美しいプラハなどを学生と見て歩きました。食費を節約するため、夕食はスーパーで買って、ホテルの一室でワイワイガヤガヤと一緒に食べたのは楽しい思い出です。今は亡き武居秀樹先生（旧社会学科）が2006年度に参加されたことも忘れがたいです。

活躍する同窓生

都留　今・昔

藤本　幸子
（昭和50年度　初等教育学科卒業）

都留に来て間もない頃、市内の小学校で50年後に開けるタイムカプセルが話題になった。小学校の教師を目指し都留文科大学に来た私は、とても気になり見に行った。それはピカピカ光り、先端がまっすぐ天に向かって伸びている近未来的な、魅力あるものだった。50年後私はどこで何をしているのだろうかと、自分の未来と重ねて見ていた。これを開ける時、自分がその学校の職員として場に立ち会えるとは、夢にも思っていなかった。私は18歳で山形からこの地に来てからずっと都留で暮らしている。卒業後すぐに地元の人と結婚して、71歳の現在まで。

今からは考えられないだろうが、下宿は共同トイレ、共同炊事場、共同風呂で、四畳半一間だった。そこで四年間過ごした。学生の身分ではテレビもラジオも買えない時代で、電話は大抵大家さんが繋いでくれた。聞かれたくない時は、十円玉をポケットに押し込み、公衆電話で必要な要件を早口で話した。今から見たら不便極まりない生活だったけれどこの上ない程楽しかった。大学四年間の下宿生活は、これまでの人生の中でも特別で、大人の階段をゆっくり踏みしめた時間だった。気の合う友達や、部活の友達と、誰かの部屋に集まって食べてしゃべった。共同炊事場では、食材を持ち寄りみんなで作り、みんなで食べた。みんな教師を目指していたので、話題は教育の事、将来の事、そして恋愛の事。人と語り合う事、分かり合える楽しさを身体中で覚えた学生生活だった。それは今、子ども達や同僚と話す時に通じているのだろうと感じる。

当時の大学は、一棟だけの建物で、三年生の時にようやくグランドと体育館、美術棟が出来た。小学校から移築した木造の音楽棟、ピアノ練習教室がちょっと離れたところにあった。商店と言えば、小さな魚屋と八百屋があったくらいで、スーパーと小規模なホームセンターが、歩いて20分以上も離れたところにあっただけだった。

ところが、今はどうだろう。近くを車で通ることはあるので、大学の建物がどんどん増え、敷地も広くなっていることは知っていた。しかし、先日構内に入って驚いた。いくつもの見覚えのない建物が並び、事務室を探すのに迷ってしまった。帰りに学食を覗いてまた驚いた。広さ、明るさ、清潔感はもとより、朝食がご飯、みそ汁、おかず6品で100円とあった。ニュースで見る都内の有名大学の学食と同じだ。田舎だと思っていた都留にもこんなところがあったのだと今更ながら思った。

大学周辺は大きく様変わりした。田んぼだらけだった大学の周りには、いつの間にか大きなスーパーが2件、全国チェーンのドラッグストアが2件、ハンバーガー店、飲食店が多数立ち並び、今では都留の中心的な場所となっている。最も変わったのは、20年前に「都留文科大学前駅」が出来たことだろう。そしてその周辺には、学生が活躍できる学習塾がたくさん出来た。都留は学生中心の、若者の街として活気を見せている。

昨年、四年間同じ下宿で過ごした友達から「都留に遊びに行きたい」と連絡があり、愛知から来てくれた。我が家に泊まり、50年前と同じように、食事をしながら学生時代の懐かしい思い出を語り合った。そして次の日、四年間住んでいた下宿を探すことにした。しかし、見つからなかった。近くにいた人に「棚本荘」を尋ねたらなんと、当時の大家さんだった。下宿は取り壊されていたが、大家さんは私たちを覚えてくれていた。50年前にタイムスリップしたように、時を忘れて道端で話し込んでしまった。

「教師になる」と意気込んで都留に来て、40年以上も教師をしてきた。教師の仕事は思うようにいかないことばかり。だからこそ続けられたのだろうが、心にわだかまる理不尽な事、自分の非力さばかりが強く残り、いくつになってもこれでいいと思うことはない。また、ふるさとを遠く離れ、年齢とともに強まる望郷の念。そんな思いを文章にしてみた。書くことで自分の気持ちを整理出来たように思う。そしてそれを、エッセイ・小説として三冊の本にまとめ、出版することが出来た。都留で過ごした半世紀のまとめとして。次のステージの出発点として。

大学時代夢中になった卓球。今も地元のクラブで汗を流している。文大生とも交流がある。その時「私は50年前の先輩です」と言えるのが嬉しい。大学と繋がりながら生活出来ることを誇りに思う。

活躍する同窓生

日本の英語教育を変える

株式会社Kids-UP 取締役副社長
辻　　球一
（昭和63年度　初等教育学科卒業）

大学時代、私はアルバイトやバンド活動に没頭し、昼休みに学食前でハードロックを演奏するなど、現在の大学生と比べると気楽で自由な昭和の学生生活を過ごしました。

そんな大学生活を終え、私は教育とは少し違う世界に飛び込みました。バブル景気の真っ只中に証券会社に就職し、バブルに踊り、バブル崩壊後の困難な市場に喘ぎ８年間働きました。その後、当時の新しい塾のモデルであった個別指導塾でこれまた８年働き、教育と経営の両面で経験を積みました。そして３社目で、「英語で学童保育」という新しいビジネスモデルを立ち上げ、全国85校を展開するまで事業を拡大し札幌から福岡まで全国を飛び回りました。

2016年、株式会社P-UPに声をかけられて入社し、これまでの経験を集約し「学童保育型英会話スクールKidsUP」を立ち上げました。2020年に分社化し、現在は株式会社Kids-UPの取締役副社長を務めています。

日本の英語教育と社会の課題

日本の英語力、とりわけ会話能力の低さは、最大の課題とされています。ある公的機関の資料によると、日本の英語能力は世界ランキングで111カ国中78位。アジア諸国の中でも最下位に近い位置にいます。特に「話す」能力は危機的で、多くの人が学校教育を通じて10年近くも英語を学んでいるにもかかわらず、英語が話せない。また、女性の社会進出が進む中「小１の壁」と呼ばれる問題も解決すべき課題です。保育園には安心して預けられていたのに、小学校に上がると学童の受け入れ不足やその質の低さから働く女性が就業継続の困難に直面する状況があります。

こうした課題に対応するため、KidsUPでは放課後の学童保育を英語で提供し、最大１日６時間という長時間の英語環境を作りました。これにより、日本にいながらまるで放課後に留学しているかのような環境を実現しました。

長時間ただ英語に触れるだけではなく、最新のカリキュラムとオリジナルテキストで子どもたちが楽しみながら学べる工夫をしています。日替わりプログラム（工作、理科実験、運動、算数、ゲームなど）を通じて、子どもたちが飽きずに集中できる内容を提供しています。これらのプログラムは、応用言語学の専門家と共同で開発した最先端のCLIL教育を取り入れています。また、学童という縦社会の中で挑戦や失敗、わくわく体験、成功体験を繰り返すことで、「ホンモノの英語力」に加えて「社会性」と「生きる力」を育むことを目指しています。

KidsUPの成果と子どもたちの成長

2016年に３人で作ったKidsUPは現在、関東に36校を展開し、従業員550名、そして5,500名以上の生徒が通っています。

開始当時は、コンセプト作り、物件探しと交渉、社員募集と採用、チラシ作りと販促営業で休日も無く働きました。良いネィティブ講師を集めるために、アメリカ、イギリスの大学をレンタカーで駆けずり回り、結果16の海外大学と提携を結び、LAに採用拠点も設けることが出来ました。色んな苦労も今は、良い思い出です。

KidsUPで学ぶ子どもたちは、わずか２～３年で「４技能」において高校卒業レベルの英語力を身につけることも珍しくありません。私たちは日本国内試験の英検ではなく、世界基準のTOEFL　Primary/Juniorを活用し、子どもたちの成長を測っています。（特にSpeakingにおいては、国内の上位４割をほぼ独占しています。）

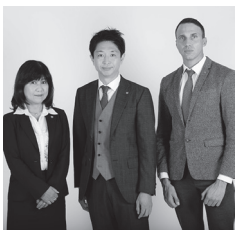
また、年に１回実施するスピーチコンテストは、小学生は全員参加です。予選を勝ち抜いた子どもたちは、私立中学の体育館を会場にして、500人以上の大人を前に堂々とジェスチャーも駆使してスピーチを行います。私も審査員として参加していますがその姿に、毎回感動して泣いてしまいます。多くの子どもは、最初は人前で話すのが苦手だったり、英語なんて全く話せない状態から始めています。子どもたちは勇気をふり絞り、失敗を乗り越え、成功体験を重ねて自信をつけて、大きく成長していきます。こうした子どもたちの変化と成長は、私たちがこの事業を続けるエネルギーになっています。

これからの展望

私の目標は、今後も品質にこだわったスクールを増やし、日本の英語教育に変革をもたらすことです。ただ直営での運営にこだわるため展開は関東に限られます。その代わり、全国で教育に携わる同窓生の皆さまと協力し、日本の英語教育を広く支援したいと考えています。

未来の子どもたちが、国際社会で堂々と活躍できる人材になるよう、私はこれからも挑戦を続けます。もしご意見や激励をいただける場合は、KidsUPのホームページか四谷本部（03-6272-4053）までご連絡いただけますと幸いです。

共に日本の英語教育を変え、次世代を担う子どもたちにより良い未来を届けましょう。



夏の北海道にて

北海道支部長　照山　秀一

Ｒ６年７月、北海道支部総会・懇親会を久しぶりに対面で行いました。同窓会本部からは桐井副会長（S33卒）、また、支部設立に関わった日下功さん（S33卒）札幌から300㌔離れた函館からは長坂隼さん（S37卒）にもご参加いただきました。懇親会では、近況報告だけでなく都留の話題も。普段は、どこかに隠れていて語られることのなかった懐かしい言葉たちも加わり、名場面集さながら、全国からの土産を囲み語りあった、あの時のようでした。

ところで、北海道は、九州＋中国＋四国地方とほぼ同じ面積、日本の約22%を占める広大な地域。その距離も一周約３千㌔と本州縦断に匹敵する長さで、会員相互の交流も容易ではありません。そこで、Ｒ７年度から、道内に地区理事を配し、オンラインも活用し相互の情報交流を図りたいと思います。

ちなみにＲ７の総会、加藤佳栄さん（S55卒）が神主の札幌の神社で健康祈願を兼ね行う予定です。他の都府県の方も歓迎です、夏の北海道旅行にでも…。

同窓会に関しては：hokkaido.terry@yahoo.ne.jp

○令和７年度支部役員（卒業年）

顧　　問	日下　功（Ｓ33初）	熊谷　勲（Ｓ39国）
	当銀　誠博（Ｓ40初）	横山　勲（Ｓ41国）
支 部 長	照山　秀一（Ｈ２初）	
副支部長	山本　洋嗣（Ｓ56国）	河原　範毅（Ｓ57英）
	新川　和範（Ｈ３初）	
事務局長	北田　則章（Ｓ57英）	
事務局次長	佐藤香代子（Ｈ６初）	桜田　琢（Ｈ９社）
事務局員	赤間　圭城（H26国）	吉田　俊介（H26英）
	國井　紗希（H26英）	
会　　計	神野　昌代（Ｈ５国）	
理　　事		
【石狩】	佐藤香代子（Ｈ６初）	小林　睦（Ｈ９社）
【上川】	藤原　聡（Ｈ２初）	田中　淳也（Ｈ９初）
【釧路】	大南　優（Ｈ６初）	
【十勝】	新川　和範（Ｈ３初）	池田　圭子（Ｈ５初）
【根室】	飯田　雄士（Ｓ62初）	髙野　智晴（Ｈ５初）
【檜山】	栃木　直子（Ｈ７初）	
【留萌】	明石　貴宣（Ｈ８国）	
【札幌】	吉田　俊介（H26英）	赤間　圭城（H26国）
会計監査	中村厚喜夫（Ｓ52初）	江川　順一（Ｓ60国）
本部理事	加藤　佳栄（Ｓ56英）	照山　秀一（Ｈ２初）

青森県支部活動報告　～広がれ、同窓生の輪～

青森県支部長　遠藤　ゆみ子

令和６年８月24日（土）、八戸パークホテルにおいて、第７回青森県支部総会・懇親会を開催しました。今回は10名の会員が集まり、楽しいひと時を過ごすことができました。

総会では、支部の活動報告や今後の計画についての議論が行われ、多くの意見や提案が寄せられました。総会後の懇親会では、参加者各年代からのスピーチがあり、和やかな雰囲気のもと、一人一人の話に耳を傾け、それぞれの「想い」を感じ取ることができました。

総会や懇親会の中で大きな話題になったのは、会員を増やすことや総会に参加する方々を増やすことでした。その中で、毎年開催する総会日を固定してみてはどうかという提案があり、青森県支部総会を毎年８月第４土曜日に固定することにしました。１年前から開催日をお知らせすることで予定が立てやすくなり、集まる人数が少しでも増えてくれればという願いからです。どうぞ今から予定に入れておいて頂き、次回はより多くの会員と親睦を図れることを切に願っています。

《令和６年度役員》

顧　　問	笹垣　昇	鈴木　俊雄	
支 部 長	遠藤ゆみ子		
副支部長	中村　正寿	畠山　直栄	
監　　事	梅村千鶴子	田茂　博之	
事務局長	川村久美子		
地区幹事	**三八**	泉山　睦典	
	上北	鈴木　昭子	
	東青	高木　圭一	安田　健治

都留文科大学同窓会　青森県支部第７回総会　令和6年8月 24 日　場所：八戸パークホテル

神様・仏様・翔平様！

岩手県支部長　髙橋　節夫

(S57 英文 空手 黒部荘)

地球の歴史上で、こんなにも優しく礼儀正しく、まじめな努力家で、それでいてお茶目で勝負にも貪欲で、人に好かれ、生きる活力となり、生活に潤いを与えてくれる人物は、他に居たのであろうか？岩手県出身のヒーロー、今を時めくメジャーリーガー、ロサンゼルス ドジャース 大谷翔平選手のことである。彼の出身校である花巻東高校の近くの中学校に副校長として４年間勤務していた私は、東高校の入学式や卒業式に何度か列席する機会があった。大谷君が駐車場の誘導係を、爽やかな笑顔・大きな声・軽快な動きでテキパキこなしていた。ひょろりとひと際背が高かったので、印象深く覚えている。ＰＴＡ主催の講演会に、東高校野球部監督の佐々木洋氏をお招きしたことがあった。ワクワクする、説得力のあるとても素晴らしいお話で、「うちの子はぜひ東高校に入学させたい！」という感想が山ほどあった。

出会い、経験、環境等の全てをポジティブ思考で柔軟に吸収対応し、今の大谷君が在るのかなあ！？来年度、岩手支部同窓会は「花巻」で開催します。

【都留大同窓会岩手支部役員】R1～6年度

（※ R7年度からは「新役員体制」になる予定です）

- **会　　長**：髙橋節夫 Ｓ57英
- **副 会 長**：小山田厚 Ｓ55国、千葉新也 Ｓ56初（特編）
- **事務局長**：相墨純 Ｈ３初
- **事務局員**：滝澤真貴子 Ｈ６初、伊藤昌俊 Ｈ１国
- **理　　事**：**盛岡**：吉田文明 Ｓ55国、**中部**：門屋なつみ Ｈ１国
  県南：加藤絹代 Ｓ55英、**沿岸**：山名秀樹 Ｓ55国
  県北：山名花苗 H28社、**高校**：安藤裕之 Ｓ63国
- **監　　事**：小山奈美子 Ｈ５初、丹百合 Ｈ５初

宮城県支部活動報告

宮城県支部長　**片岡　有吾**

コロナ明けの昨年度に引き続き、令和６年２月３日(土)、宮城支部総会を開催しました。同窓会長の笹本忠彦様、山形支部長の渡邉隆様をお迎えし、会員40名の参加で再会の喜びを分かち合いました。近況報告では一人一人の個性豊かなスピーチに全員が聴き入り、最後まで楽しく和やかな会となりました。

また、８月には教員採用試験対策学習会を開催し、都留大の学生が１名の参加でしたが見事合格しました。さらには、若手の同窓生による懇親会も初めて開催しました。今後も宮城支部の活動を更に充実させていきたいと考えております。

【宮城支部教員採用試験研修会・支部についての問い合わせ】
〈メール〉yugo5042@gmail.com　片岡までお知らせください。

〈令和６年度役員〉

顧　　問	鎌田光彦	鎌田　清	小野俊次	千葉龍正
	菅野俊雄	菅原義之		
参　　与	伊藤常治	坂本忠厚		
大学同窓会理事	坂本忠厚	片岡有吾		
支 部 長	片岡有吾			
副支部長	一條良介	斎藤竜一	市岡良庸	
	小野寺直美	伊藤ひろみ		
事 務 局	〈事務長〉	菅野俊雄	〈事務局次長〉	髙橋克己
総会・懇親会担当	斎藤竜一	小野寺直美	伊藤ひろみ	浅井理香
	熊谷拓郎	高野　剛	大庄司華菜	
会　　計	横山英実	及川恵子	杉浦瑞穂	大庄司華菜
地区役員	仙台市	○菅原　崇	広瀬清文	蓮沼秀行
		高野　剛		
	仙　南	○伊藤久美子	佐藤幸光	馬場純子
	仙　台	○高橋克己	吉田準子	齋藤竜一
	大　崎	○清水　進	伊藤　稔	市川人士
	登　米	○佐藤　純	及川恵子	
	栗　原	○岩渕和男	千葉睦子	後藤咲織
	石　巻	○高清水芙美枝	片岡明恵	
	気仙沼	○小野寺直美	千葉慎一郎	菅原佳江
研 修 部	〈部　長〉	一條良介	〈副部長〉	斎藤竜一
監　　事	横山貞夫	佐藤幸光	相澤光信	

来年度の総会へ向けて

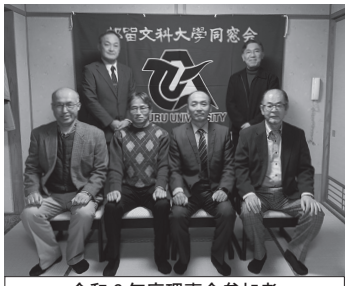
山形県支部長　**渡邉　　隆**

山形県支部では、隔年で総会を実施しているため、今年度については、理事会にて事業並びに決算状況について報告を行うこととしています。今回は、12月に理事会を実施し、お集まりいただいた理事の方々に、支部長の私より会計、佐藤副支部長より本部理事会に参加した内容について報告を行いました。

近年、教員採用試験の受験者数が全国的に減少している中、本県においても志願者倍率が芳しくなく、学校現場においても苦慮している状況です。私が勤務する小規模に属する学校でも、継続して新規採用の教員が赴任しており、若手教員の育成及びメンタルケア等の対応が重要になってきています。

令和６年度の本部理事会に参加した佐藤副支部長の話では、例年、少数ですが参加のあった山形県採用希望の現役学生との懇話会に、今回は全く参加者がいなかったとのことで、昨今の教員の過酷な勤務実態に対して、忌避感をもつことになっているのでは？と危惧しているところです。来年度は、多数の現役学生の参加が望まれるところです。

さて、山形県支部総会が山形市を会場に実施されることとなってだいぶ年数が過ぎていますが、昨年度の総会の折に、欠席ながら返信いただいた方々が多数いました。今回の理事会では、新たに各地域（庄内、最上、置賜）においても、各地域理事を中心に集まりを実施していってはどうかとの提案もいただきました。このことを踏まえ、山形市以外に居住する方の総会への参加につながるよう、実施へ尽力していきたいと思います。



令和６年度理事会参加者

【令和７年度　べにばな会役員】

顧　　問	武田茂行	会　　長	渡邉　隆
副 会 長	佐藤敏幸	会計幹事	原田清一
村山地区理事	小川秀人	鈴木雄二	白林和夫
最上地区理事	武田茂行		
置賜地区理事	神尾正俊	佐藤秀樹	中條秀基
庄内地区理事	若月　力	野口利明	

「つるぐみとちに翼」～はて？～

栃木県支部長　**平野　見一**

栃木県、そして全国の同窓生のみなさん、こんにちは。本支部は令和元年８月31日に全国41番目の支部として設立され**令和６年に５周年**を迎えることができました。今後も支部会員をはじめとした全国の同窓生の皆様のお力添えをお願いいたします。

令和６年度の事業は**「支部活動に多くの翼」**を与えられたように思います。更に羽ばたけ！

その１　５年振りの支部総会及び懇親会の開催

コロナ禍のために支部設立総会以来の参集しての総会及び懇親会となりました。加藤敦子学長の御講演もいただきました。新たな絆の翼が増えました。

その２　年度２回の役員会の開催

役員会を昨年度と同じく２回開催（６月、３月）できました。２回目は新役員も参加です。新たな力強い翼を得られました。

その３　「同窓生と在学生との懇話会」への参加

大学同窓会理事会終了後、栃木県の教員を目指す４年生３名に支部長が情報提供等を行いました。

なお、昨年度の参加者から教員採用試験に合格したとの連絡がありました。新たな翼の誕生です。

最後になりましたが、都留文科大学と都留文科大学同窓会のますますの御発展と全国の同窓生の更なる御活躍をお祈りいたします。

◆役　員◆　※理事は省略させていただきました。

支 部 長　平野見一
副支部長　柿沼裕子　　磯　佳子
監　　事　菱沼　孝　　齋藤初代
事務局長　赤羽喜代美

※栃木県支部に新たに加入したい方、興味・関心がある方は、平野まで御連絡ください。
平野見一　【携　帯】090-4662-1944
【メール】hira3ken3@hb.tp1.jp

※写真は令和６年６月29日開催の支部総会です。

支部活動の再始動、その第一歩

群馬県支部長　**齋木　雄造**

群馬県支部では、平成30年８月18日（土）に支部創設10周年を記念する総会・懇親会を開催しました。その後、コロナ禍による休止期間を経て令和６年８月24日（土）、高崎ワシントンホテルプラザで支部活動の再始動となる「総会・懇親会」を開催することができました。本当に久しぶりの開催でしたが、今回、改めて感じたのは、出席者一人一人の中にそれぞれの「都留」があるということでした。限られた時間の中ではありましたが、初対面であっても共に都留を語り合い、明日につながるエネルギーを得ることができた、そんな「総会・懇親会」になったのではないかと思います。やはり集まれることはすばらしいことです。次回は、令和８年の開催予定です。来年のこのページで案内できるよう準備を進めますので、みなさん、ぜひ集まりましょう。

ところで、昨年、再開した「教員採用試験模擬面接学習会」ですが、今年は猛暑の８月17日（土）に前橋市民文化会館の会議室を使って開催しました。教育を巡るさまざまな状況の中で若い人たちが教職を目指しているのは何とも頼もしいことです。今回は２名の在学生に対して支部役員３名が講師を務め、それぞれ実践に基づいた助言を行いました。

このように同窓生はもちろんのこと、在学生との交流や情報交換などを行えたことが、支部活動の再始動、その第一歩であったのだと気付いた次第です。

【群馬県支部役員】

顧　　問	角田　達夫（昭49英）	
支 部 長	齋木　雄造（昭52国）	
副支部長	土屋　　勇（昭57英）	池澤　博子（昭56初）
事務局長	島田実恵子（昭44初）	
監　　事	金沢　和子（昭54英）	鈴木　尚子（平２国）
庶　　務	古川　　整（平11社院）	金井　幸光（平２初）
	松本　哲夫（昭50英）	遠藤真紀恵（平12初）

報告と支部からの提言

千葉県支部長　**川名　和則**

令和６年12月15日、コロナ禍で開催できなかった受勲者２名を囲んでの祝賀会と併せて千葉県支部同窓会総会に向けた役員会を開催することができました。

受勲者は、野田純氏：山梨県日川高卒・国文学科・空手部所属・S47年３月卒業後、千葉県内に奉職。小学校を中心に国語や道徳教育の指導に力を注がれ管理職の道を歩む。天津小学校校長を退職後、鴨川市教育長としても二期、教育行政の手腕を発揮され『瑞宝双光章』の栄を受けました。

宮木昇氏：静岡県浜松市出身。英文学科・PES所属・S46年３月卒業後、千葉東高等学校を皮切りに行徳・検見川高校を経験され千葉県教育委員会へ抜擢される。12年間の県教委時代には成田国際空港のある千葉県の発展のために、成田国際高校、稲毛高校や松戸国際高校の開設にも貢献。松戸国際高校、薬園台高校の校長を歴任し退職後も神田外語大学で７年間教鞭を執られ、その指導力が高く評価され『瑞宝小授章』を受勲されました。お二人とも、長年のご功績が広く認められ受勲されましたこと、我々同窓生としても大変嬉しく存じます。３時間の和やかな祝賀会の後半には、次年度に向けた総会の流れを木村雅浩事務局長から提案があり、可決されました。総会は令和７年６月の予定。

私からは、今年度から学部改編され、『次世代を見据えた人材育成を目指して頑張っている大学の取組状況』や「今年度の入学生数が大幅に伸びた状況等」を報告させていただきました。一方、『今後の課題等についての要望点』もヒヤリングしたので、列挙させていただきます。

1　**民間就職をする同窓生が増えているが、支部登録されていない現状を危惧している。**
　解決策：個人情報保護の観点も大事だが、都留大の支部組織を更に発展させるためには、キャリアセンター等の力を借りて、積極的に卒業時などを利用して支部登録のPRを行うなど。

2　**今年度の入学生を上回る学生を受け入れるために、支部としても何ができるか。**
　解決策：『都留大の魅力』を今まで以上に受験生や高校の教員に知らせる！３年生だけでは遅すぎ。
　：大学スタッフだけでなく、同窓生や現役学生を母校に派遣し、高校１～２年の生徒に総合型選抜・学校推薦型選抜等を意識させることが、資質ある学生募集に繋がる！
　：HPを常にアップし、最新の情報を提供することが肝要など。SNS利用も必要か・・・？

その他、貴重な意見も出された。母校、都留大の支部旗を背景に学生歌「花のかげ」を合唱できたこと、『都留文科大学の更なる発展を願っている！』ことも再確認でき、たいへん有意義に幕を閉じることができた。

さて、千葉県支部の『教員対策研修会』は、昨年同様、３日間の実施となった。今年から各県の選考日が早まった関係もあり、４月の連休からスタート。会場提供していただいた関係校とボランティア講師の先生方にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

写真：受勲祝賀会・学習会・盛況な文化祭

支部活動の報告

神奈川県支部長　**山田　節朗**

神奈川県支部同窓会は、新型コロナの５類移行を受け、昨年度より活動を再開しました。

本年度は総会を開催する予定でしたが、諸事情により来年度に延期することとしました。

総会に向けて、事務局の会議を７月13日に開催し、今後の活動と準備の進め方などを協議しました。その中で名簿の整理が必要となり、その作業を進めています。また、12月７日には理事会を開催しました。昨年の理事会以降の事業報告や会計の執行状況を報告するとともに、総会の時期・持ち方・アトラクション等について協議しました。協議の中でも、特に名簿の確認や整理がますます難しくなり、今後どうしていくかが課題となりました。今後は総会に向けて理事会も随時開催していく予定です。

地区活動としては、11月16日に相模原地区が懇親会を開催しました。ご多忙の中、同窓会会長の笹本忠彦様と副学長の春日由香様にもご臨席を賜り、和やかにそして盛り上がった懇親会となりました。横浜地区では、12月６日に懇親会を開催しました。そして、両地区とも参加人数の多少に関係なくこれからも地区活動として続けていくことを確認しました。

支部の活動が今後も充実するよう努めて参ります。

楽しく、豊かな時間を

富山県支部事務局長　**三國　大輔**

様々な分野で活躍する同窓会員の皆様に、楽しく、豊かな時間を過ごしてほしい。７月27日(土)、富山県民会館において「富山県支部の集い」を開催しました。３月に卒業したばかりの会員を含む31名が参加しました。写真集『ぼくたちの大切な時間』を刊行し、ＮＨＫ「イナガキヤストの本気旅」等の看板番組をもち、県内外でご活躍中のPHOTOGRAPHER イナガキヤスト氏をお迎えし、記念講演が実現しました。

演題は「好きなことを突き詰めて、人に喜んでもらえたら」。竹田新副支部長の進行の下、対談形式で行われました。参加者からいただいた質問に対し、イナガキ氏がご自身の撮影した写真を紹介しながら答えてくださいます。居住地にまつわる写真が登場するたびに歓声が沸き起こる、贅沢な時間でした。

講演後、「鳥肌が立った。忘れられない日になった」という興奮冷めやらぬ声が多数寄せられました。「セカンドライフに入った今、好きなことを突き詰めるくらいにチャレンジ精神をもって有意義な日々を過ごしていきたい」という先輩会員の言葉、「卒業したら必ず富山県に帰ってくると決めていたくらい、富山県が大好きです。富山県の魅力をイナガキ氏の写真とともに子供たちに伝えていきたい」という若手教員の言葉が心に残っています。この集いが縁となり、後日、ご自身の学校でイナガキ氏をお招きし、講演会を開催したという話を伺っております。

記念講演のあとは歓談です。下宿のこと、あの店この店と思い出話に花が咲きます。「久しぶりに都留に行き、友達と再会した」という声が以前より多く聞かれた気がします。

イナガキ氏の写真は学習帳の表紙にもなっています。杉高浩支部長の計らいにより、サイン入りノートのプレゼントが手渡され、会場を後にしました。

記念講演を通して再認識した富山のよさと、第二の故郷である都留のよさを重ね合わせています。富山県支部は今後も、楽しく、豊かな時間を共有できる運営を目指してまいります。

「城山」に思いを馳せて

福井県支部　**山本　貞郎**

令和６年11月16日(土)、福井市内のとあるパーティー会場にて、都留文科大学福井県支部同窓会『城山会』（しろやまかい）の総会および懇親会を行いました。本同窓会が『城山会』として発足したのは、平成７年。初代会長は故 中橋鎁治先生です。おそらく当時の役員の方々の総意で『城山会』と名付けたのでしょう。

この日も、学生歌『花のかげ』を集まった皆で声高らかに歌いました。その４番に「城山の雪の下より～」という歌詞があります。

実は、中橋先生の故郷、福井県越前町には、「城山」と書いて「じょうざん」と呼ばれている高さ540ｍほどの小高い山があります。昔は、小中学生の遠足コースにもなっていました。『花のかげ』の「城山」と故郷の「城山」。この二つを絡めた命名であろうことは、想像に難くありません。

さて、本『城山会』が発足してから今年でちょうど30年を迎えました。途中コロナ禍もあり、思うように活動できない時もありました。また、この御時世、個人情報に関する云々で名簿の管理が行き届かないところもあります。そのため、総会等への参加を呼びかけるのも難しい状況です。そのような中、今回の総会では、今後どのようにして『城山会』を盛り上げていくかについて熱のこもった議論ができました。また、その後の懇親会では、近況報告や大学時代の思い出話に花を咲かせ、本当に楽しい時間を過ごすことができました。「他県の同窓生と久しぶりに会った」「〇年ぶりに部活の仲間と飲んだ」という話も次々に飛び出し、都留文大とのつながりが脈々と生きていることに感激しました。それでこそ都留文大だと改めて思いました。人と人とのつながりを結ぶことが何となく難しくなっている昨今、都留文大や『城山会』が確実に私たちをつないでくれていることを実感した、そんなひとときでした。

これを読んでいる同窓生のあなた！　ぜひ次回の総会で御一緒に『花のかげ』を歌おうではありませんか！　都留文科大学同窓会福井県支部『城山会』を、今後ともどうぞよろしくお願いします。

学生に期待

山梨県支部長　**輿石　　務**

令和６年７月28日(日) ９時過ぎ、大学５号館前到着。朝から暑い。今日は、数日後に迫った山梨県教員採用二次試験対応のため、山梨県支部主催で毎年行われている学習会の日です。(新型コロナ蔓延時は中止)

さて、教員希望者が減少している昨今、何人が参加してくれるだろうか、と不安な気持ちで玄関で立っていると、一人二人とそれらしき服装の学生が入ってきました。

10時、23名の学生と講師12名（教員OB、現役教員）により学習会開始。小論文対策、模擬授業・集団討議、個人面接と学習会を行いました。学生一人一人、とても勉強してる姿が見られ、はきはきと自分の考えを述べ、また、他者への聞く姿勢もすばらしく、講師の方々もそれにひかれ、熱く接する姿が見られました。私たちが学生だった頃と雲泥の差。きっと今の学生は、優秀なんだろうな、また大学の先生方も大分指導されているのだろうな、と思い、ぜひ教員に採用され、活躍してほしいと期待するばかりでした。

＊講師として協力くださった教員OB、現役教員の皆さん、ありがとうございました。

令和５・６年度　山梨県支部役員

会　　長	輿石　　務
副 会 長	篠原　利明
	雨宮　義仁
事務局長	浅川　孝夫
事務局次長	中山　栄二
	小沢愼太郎
監　　事	玉島　正隆
	諏訪　桂一

大学プライドと大学愛　祝創立70周年

長野県支部長　**市村　一彦**

令和6年10月26日（土）に長野市善光寺の近くのホテル信濃路において第9回長野県支部総会を開催しました。加藤敦子学長と笹本忠彦同窓会長にご臨席を賜りました。会員10名と共に盛大な会になりました。加藤学長の講話では、猛烈に進化している大学の現状やデジタルシチズンシップ等の戦略的なプログラムのことをお話しいただきました。笹本同窓会長からは、都留文への「大学愛」と「大学プライド」の話を中心に大学に対する思いをお話しいただきました。参加した皆さんは、懐かしいあの共通の学び舎のことや学生時代の思い出、今の生き方と大学時代のつながりなど楽しく語り合いました。改めて大学愛と都留文科大学で過ごした我らの根底にある都留文プライドを確かめ合えたと思います。

70周年記念事業のキャッチコピーは「色とりどりのミライへ。」とお聞きしました。私たちもあれから色とりどりに人生を進んでいます。母校が未来へ向かって進化していることを嬉しく思います。

来年度の支部総会は南信で開催します。登録のメールアドレスに案内をお送りします。参加していただけると幸いです。

〈長野県支部役員〉

支 部 長　市村一彦（初教1989卒）
副支部長　柄澤　敏（初教1989卒）
　　岩崎　朗（初教2001卒）
事務局長　大平　寛（初教2002卒）
監　　事　金井親志（英文1986卒）

都留文科大学同窓会岐阜県支部の活動報告

岐阜県支部長　**香田　静夫**

1　新たな風を吹かせます！～Tsuru University of Humanity～

岐阜県支部では、令和6年度役員会を開催（令和6年4月27日）し、令和5年度事業・決算報告と令和6年度事業計画・予算案及び役員改選について審議し、決定しました。支部規約に基づき、今年度は総会を開催せず、役員会での承認となりましたが、以下の新たな役員を中心に、会員の拡充や相互の関係づくりに取り組んでいくことを確かめ合いました。

＜都留文科大学岐阜県支部新役員＞

役　職	氏　名	卒業年度
会　長	香田　静夫	1985年
副会長	河合　均	1984年
事務局長	成瀬　岳志	1986年
庶　務	佐藤　眞二	1972年
庶　務	古川　一男	1981年
庶　務	山口　敏則	1985年
庶　務	河合　のぞみ	2005年
監　事	清水　久司	1978年
監　事	村井　一雄	1978年
顧　問	山本　吉朗	1965年

令和7年度、母校が創立70周年を迎えるにあたって、本学及び本学同窓会では、様々な記念行事が予定されているとのこと。岐阜県支部では、県内の同窓生が集う総会の開催年にあたります。世代を越えた仲間たちと、節目をお祝いするとともに、岐阜県支部としても関連事業を企画し、思い出の大学生活を振り返って、旧交を温めたいと思います。

2「花のかげ」（大学校歌・愛唱歌）に寄せて

♪「花のかげ 集える友は 青空に みなぎる力 結び合う 心のちかい
生命の讃歌 みちあふれて こだまは返す おお都留大学」

大学を卒業して40年。在学当時、よもや還暦を過ぎる日が来るとは、思ってもいませんでした。大学3年生の春、先輩からの言い付けで、学内に岐阜県人会をつくろうと奔走しました。人伝に県内出身の学生を探して声をかけましたが、そもそも“控えめで、恥ずかしがりや”の県民性もあってか、二つ返事で入会してもらえる学生は少なく、思うように勧誘できませんでした。それでも、何度も何度も先輩や後輩にお願いして、どうにか発足に漕ぎ着けることができ、小さく細やかな会ではありましたが、皆が集まっての懇親会を開催でき、安堵したことを思い出しました。

この度、同窓会岐阜県支部長をさせていただくことになりました。新たな役員とともに、時期は異なっても濃密な大学生活を過ごしたという、縦・横のつながりを大切にしながら、ふるさと岐阜に都留の風を吹かせたいと、気持ちを新たにしたところです。

時を同じくして、昨年（令和5年）から、学生時代に所属していた卓球部OB同期会を始めることになりました。東京都（青森県）、岐県阜、京都府、兵庫県、長崎県（Chicago.USA）、熊本県（大分県）から20年ぶりに集まった仲間たち。本格的なおじさん、おばさんになりましたが、再会すれば学生時代と何ら変わらない関係がそこにあり、心が洗われました。

私にとって、これからも今の自分をかたちづくってくれた都留大4年間の生活は、心の中にかけがえのない大きな存在として生き続けるに違いありません。そうした大切な一つ一つを思い出させてくれる時間を、お世話になった皆さんと共につくっていきたいと願います。

平和を願って（その3）

静岡県支部長　**臼井　泰**

能登半島の大地震に始まり、９月の豪雨災害と能登半島で被災した方々には心よりお見舞い申し上げます。今年は、パリのオリンピックや大谷選手の活躍など明るいニュースもたくさんありましたが、地球は今後どうなるのでしょう。自然の面での地球温暖化現象、東欧・中東の戦争・紛争等々。我々の力ではどうにもならないことですが、気の重い一年でした。そんな中４月の理事会の折、群馬の理事さんと楽しい話が出来たり、東京で久しぶりに同窓生数名と会えたことが唯一の慰みです。

さて、静岡県支部は理事会を９月実施し、２月の総会開催を決定しました。来年はその報告ができると思います。本県には今後の同窓会のあり方、総会の持ち方等課題も多いので、県下の卒業生（同窓会員）の皆様のご意見をお聞かせください。

次年度（会報の届く今年）は、本学の開学70年ということです。私事になりますが、すぐ「軟式テニス部」に入部し、コートづくりに汗を流し、関東リーグの仲間入り。その後「方言学研究会」（昭和50年代に消滅）に所属しました。今思うと、大学の創成期だったと思います。各地に散った学生時代の友と時々交流しますと、いろいろな面で励みとなります。既に逝ってしまった友もおりますが、これからも会う機会を作っていきたいと思います。今を語り、昔を語り、そして未来を語る、そんな一時を大事にしたいと思います。また、少子化による大学の存続などが話題に上る中、都留文科大学の理念を生かした教育関係者が多く巣立っていくことを願っています。

最後に、今年も合唱団の全国大会受賞を知りました。おめでとうございました。本学の現役の学生の皆さんのご活躍を見たり聞いたりするのはとてもうれしいものです。今後の同窓生の皆様のご活躍を祈念申し上げます。

〈連絡先〉西部・大塲孝純　053-835-4779
中部・江川初枝　054-292-2231
東部・星屋　康　090-1289-0902
臼井　泰　090-2185-8147

愛知県支部（県富岳会）この一年

愛知県支部長　**加藤　俊行**

愛知県支部は、様々な活動を、少しずつコロナ禍以前に戻しつつあります。

12月には、昨年度から再開した地域交流会を、今年度は名古屋市で行いました。県下７地域、OBを含めた19名の同窓生が、再会を喜び、旧交を温めたり、新たな出会いがあったりと大いに盛り上がりました。最後は「花のかげ」を熱唱しました。

また、本会は５年に一度、愛知県支部（県富岳会）総会を実施しています。平成12年以来、これまでに４回実施しています。令和２年に予定していた第５回の会はコロナで延期となり、令和７年に11年ぶりの実施を予定しています。久しぶりの開催なので、盛大な会になるように準備を進めていきます。

教員採用選考試験に関しては、愛知県・名古屋市の受験希望者を対象に学習会を予定しました。名古屋市で受験希望者１名から連絡がありましたが、残念ながら途中で辞退され、「希望者なし」という結果になりました。次年度以降、受験希望者からの連絡が増えることを期待したいと思います。

【令和６年度支部役員】

支部長　加藤　俊行（名古屋　S63初教）
事務局長　加藤　由恵（名古屋　H３初教）
地域幹事　名古屋　美頭　伸洋（H10初教）
尾　張　土屋ゆり子（H４初教）
知多・海部　冨田　崇（H３初教）
西三河　金丸　和章（H15初教）
豊田・みよし　溝口千恵美（S63初教）
新城・設楽　石田　浩三（H10初教）
東三河　大木　健（H９初教）

【令和６年12月７日　地域交流会にて】

三重県支部の近況

三重県支部長　**田畑　繁行**

令和６年度の総会を８月31日に県教育文化会館において開催を予定していましたが、台風10号接近に伴う悪天候のため、参加者の安全を考慮し、開催を中止し、規約に基づいて役員会にて議案を議決しました。

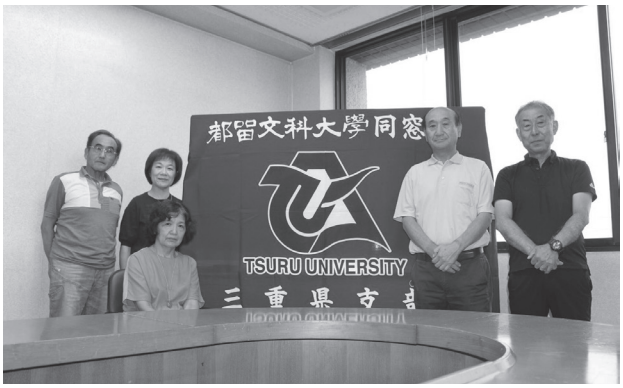
当日は、総会後に久居少年少女合唱団によるミニコンサートを予定していましたが、その素晴らしい歌声を聴くことができず残念でした。尚、コンサートは、次年度の総会において改めてお願いする予定です。

支部の事業計画として、「会員相互の親睦と交流」「支部組織の充実」を掲げています。総会の出席者数の拡大も具体的な目標の一つとしています。しかし、毎年、限られた顔ぶれで、高齢化も進んでいます。是非、若い世代にも参加していただき、和やかな雰囲気の中で、学生時代の話をしながら、年代を超えて親交を深めてほしいと思います。多くの方に参加いただき、みんなで三重県支部を盛り上げていきたいと思います。

令和７年度は、三重県支部設立20周年を迎えます。通常の総会の他に記念行事を計画しています。内容が決まり次第、会員の皆様にお知らせしますので、是非、参加をお願いします。

令和６・７年度　三重県支部役員（卒年）

会　長　田畑　繁行（S54初）
副会長　八重嶌敏一（S55初）　南　勝雄（S54初）
監　事　宮崎　弘子（S56初）　一木　尚子（S52初）
事務局長　六田　嘉郎（S57初）
会　計　松岡みつ子（S56初）
庶　務　熊谷　道代（H12初）
顧　問　福田　和幸（S46国）



滋賀県支部　第９回総会・懇親会IN彦根

滋賀県支部長　**松嶋　孝雄**

今年度は、譜代大名井伊家のお膝元彦根にて、初参加の２名を加え12名で支部総会と懇親会を開催しました。

総会では、自己紹介の後、今年度役員、前年度会計決算、今年度予算、支部独自の助成事業「都留への旅」、就職支援活動等について参加者の皆様よりご意見を頂戴し、議案の承認をいただきました。

また、次年度総会の日程と場所（8/17近江八幡市）も仮決定させていただき、支部活動の継続に見通しをもつことができました。

懇親会では、都留の地で大学生活を送った共通の仲間だからこそ語り合える昔話に花が咲きました。途中、スライドを使い「大学のいま、都留のいま」を紹介すると、懐かしさが増し、話が弾みました。

卒業年度が異なる仲間だからこそ、「私の時は・・・」という時間の経過を感じさせる話がとび出し、改めて都留の再発見をさせてもらえるシーンでもありました。また、趣味にされている「よし笛」演奏を披露していただく時間もあり、滋賀ならではの懇親会となりました。近年、滋賀県出身の卒業生や在校生がほとんどおられないことは大変残念ですが、みんなで細く長く支部の活動を支えていきたいと思います。

【滋賀県支部役員】　（卒業年度・学科）

支部長　松嶋　孝雄（昭和46年度初教）
副支部長兼会計監査
大澤　裕（昭和56年度国文）
会計監査　塩屋　勝志（昭和57年度初教）
事務局長　齊城　勝美（昭和59年度初教）
事務局　大橋　雅子（昭和57年度初教）
中村　雅昭（昭和58年度初教）
村田　良文（昭和58年度初教）

支部10周年記念で都留へ

京都府支部長　枡谷　雄三

今年は、京都府支部結成10周年。以前から10年目には、みんなで都留へ行きたいね、と話題にのぼっていました。

８月４日京都駅前を12人がバスで出発、白糸の滝を見学し、河口湖畔で宿泊しました。夜の宴会は、宿の方に「もう終わりの時間です」と言われるまで盛り上がりました。

翌５日早朝、富士山が見えました。いよいよ母校へ。大学では、事務局の方が迎えてくださいました。そして、校舎内を案内していただき、教室の作り（４面ともホワイトボードであったり、作り付けのプロジェクターがあったり、机は固定でなく授業に合わせてレイアウトできるなど)、図書館も見せていただきました。

午後は､都留の街を自由散策、すっかり変わっていた「都留文科大学前駅」、すっかり変わっていたけれど、懐かしさの残る谷村町、都留市駅付近などを懐かしんできました。帰りは､「山梨のモモ」を買ったり、外国人の観光客の多い忍野八海を見学したりしました。

12月には例年おこなっている総会と懇親会。今年は、加藤敦子学長に現在の都留文科大学の様子・目指すところなどについてご講演をいただきました。参加者の｛都留愛｝が深まったことでしょう。加藤先生には２次会にもお付き合いいただいて、元学生と親交を深めていただきました。

支 部 長　枡谷　雄三（Ｓ44年度卒）
副支部長　北村　友子（Ｓ48年度卒）
事務局長　草野　　真（Ｓ49年度卒）

かつての「若手」で支える支部活動 ～大阪府支部「若手会」～

大阪府支部事務局長　髙橋　康一

卒業して大阪府内で活躍、近隣府県在住だが大阪府内で就職、あるいは、入学前の実家などが大阪府内など、大阪にゆかりのある卒業生で構成される大阪府支部ですが、新たに支部へ入会する人が年々減少しています。

大阪府・大阪市（当時）の教員採用状況を見ましても新入児童生徒数の漸減にともない1980年代半ばには採用数が極めて少なくなり、しばらくそういった状況が続きました。同窓会は決して教員、教育関係者に限定したものではありませんが、大阪府支部の場合は1980年代半ばに採用された者がずっと「後輩」のままです。

今から25年ほど前に、支部メンバーの中の自称若手世代で「先輩方から話を聴く機会のほかに、現場で中堅となった者どうし悩みを出しあい、お互いが切磋琢磨して励みとなるような会もあったらいいね。」とまとまって「若手会」を誕生させました。

フットワークがまだ軽かったこともあり、学期に１度はみんな仕事帰りに駆けつけて集まり、いろんな話を交わしていました。支部長や支部全体の集まりの幹事役もその後は先輩方からバトンタッチされ、気づけば支部活動の担い手となっていきました。年１回開催の大阪府支部の総会も今では「若手会」のメンバーが準備し、当日の進行もさせていただくこととなっています。

かつての「若手」も今では全員が定年を迎え、再任用や非常勤の立場などで以前の仕事とつながりを持っていたり、新たな道でスタートしたり、また、地域での活動に勤しんでいたりといった感じです。集まる回数こそ以前ほどではありませんが、昨今の教育に関する話題や今も現場ではたらく人たちのことに心を向けたり、それぞれの立場で気づいたことなどを意見交換したりしています。前回は「次の支部の総会、どんなふうに開こうか。」「大阪府ゆかりの新しい人たちに声をかけられないものか。」と相談していました。

同窓会報に載る他の支部の活動も参考にして大阪府支部の活動をいっそう活性化し、先輩方が築いてくださった伝統と誇りをこれからも引き継いで次の世代にも伝えていきたいと考えております。

支部存続の危機

兵庫県支部長　高谷　和久

兵庫県支部が創設され、会報誌を出し始めて、本年が第34回となります。

兵庫県支部総会は、兵庫県内を７つの地区（神戸、阪神、但有、但馬、西播磨、東播磨、淡路）に分けて、それぞれの地区で総会を開催し、OBと現職の先生方が親睦を深め、その時々の教育課題について意見交換を深めておりました。

しかし、令和３年からは、コロナ禍の影響によって人と人のつながりが希薄になり、各地区における総会が、実施しようと思っても、同窓生への連絡がつながらない実態が浮かびあがり、計画を立てることが困難な状況になってきております。

30年にわたり、支部総会を続けてきたわけですが、今後の方向について､本部役員会で相談をしております。

その中でも、何とか続けてきているが、教員採用試験に向けての模擬授業、面接を実施しているところです。

話は少し変わりますが、現在、大学の在校生の実態はどのようになっているのかが全くわからない状況ですので、できれば､各都道府県の人数だけでも教えていただければ､教員採用の計画も立てやすいのにと思っております。

最後になりますが、昭和40年～50年頃に卒業した者と新校舎やワンルームマンション等で学生生活を過ごした若い方々とは、都留をなつかしむ思いに大きな壁が出来てしまっている様に感じるこの頃です。

若い同窓生が支部活動を引きついでくれることを願ってやみません。

兵庫県支部本部役員（令和３年～６年度）

支　部　長	高谷和久	(S43年度初等)
副 支 部 長	小林伶子	(S40年度初等)
	後藤純二	(S47年度英文)
	中山貞二	(S54年度初等)
事 務 局 長	庄田康夫	(S48年度国文)
事務局次長	松尾弘子	(S60年度初等)
会　　計	小西　勝	(S45年度国文)
会 計 監 査	牛尾英俊	(S46年度初等)
各地区理事	７名	

繋ぐこと、そして前へ

奈良県支部長　**岡田　善英**

11月10日に奈良市内のホテルにて奈良県支部総会を開催しました。今回の総会は、支部にとって大変意義深いものになりました。

奈良県支部の設立は、今から30年も前の平成６年12月11日になります。地元に在住する卒業生の有志が集まり、設立の準備会を作り設立の日を迎えたのです。当日は大学から一木昭男教授、同窓会本部から２名の役員の方々にお越しいただきました。総会も無事終わり、その後の懇親会の話題は大学生活での思い出一色になり大いに盛り上がったと当時の「支部だより」に載っています。

その興奮も冷めやらぬうちに、翌平成７年１月17日にあの阪神・淡路大震災が起こったのです。激震地は未曽有の災害にみまわれ日常生活も奪われました。そんな状況下にあって、発足早々の支部活動も停滞し、10年前の再起までに長い時間が過ぎてしまいました。

そして今年、会員の協力により、設立30周年の節目の総会を迎えたのです。総会には、加藤敦子学長・笹本忠彦本部会長をお迎えし盛大に開催できました。参加した会員からは、「学長先生や会長様をお招きできたことに、驚きと感謝しかありません。」「めったに話す機会のないお二人と歓談するときは緊張したけれど、気さくに話しかけてくださり和やかな雰囲気で楽しむことができました。」等の感想が寄せられました。

全国でも卒業者数の少ない支部ですが、会員それぞれが大学への愛を持ち続けることの大切さを今回の総会を通して学びました。会員相互の繋がりを強くして、これからも前に向かって進んでいきたいと思います。

令和６年度支部役員

名誉会長	瀧川　佳市		
会　　長	岡田　善英		
副 会 長	高橋　　強	山本　泰彦	
監　　事	石田　好庸		
理　　事	西尾八千穂	辻　　明彦	清水　直樹
	池田　祐之	米田　悦子	

まもなく支部創立10周年

和歌山県支部長　**谷口　博保**

令和６年を振り返ると、正月早々の能登半島の大地震に始まり夏の猛暑、豪雨災害と自然の脅威を見せつけられた年だったように思います。

被災された地域や皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

私たちにできることは限られていますが、被災地のことを想い、そして募金や支援活動など、自分ができる範囲の支援をすることではないかと思います。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

令和６～７年度役員

役　職	氏　名（卒年度学科）	氏　名（卒年度学科）
会　長	谷口　博保（S51　初）	
副会長	廣田　千鶴（S50　初）	和田　靖子（S52　初）
	中村　善弘（S54　国）	山田　欽哉（S52　初）
事務局長	阪中　美文（S53　初）	
監　事	小左古　治（S45　英）	山入　邦雄（S46　英）
	木浦　憲一（S46　初）	根田　　渡（S47　英）
庶　務	平野　幹夫（S46　初）	木原まり子（S50　国）
	辻本　恵代（S50　初）	真砂　良子（S54　初）
	廣田　敬則（S55　初）	鳥越　　博（S57　初）
	永石　　和（S57　初）	
顧　問	前田　　忠（S45　初）	

活動内容（予定）

令和６年度		令和７年度	
5/16	総会（和歌山市）	６月	事務局会
7/30	事務局会	10月	役員会
12/3	役員会	１月	事務局・役員会
令和7年3月	役員・幹事会総会	令和8年3月	総会（10周年記念）

令和８年は支部創立10周年を迎えます。支部会員皆様方のご支援ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

二泊三日の都留の旅

鳥取県支部長　**西田　智貴**

「講義棟にＬＡＷＳＯＮ！？」

「まだあったのか松鶴！！」

学び舎の変化も勿論のこと、しかし変わらないものへの驚きにも終始感銘してしまう私でした。久しぶりの一人旅がそうさせたのか、このまま明日も明後日もここに居て、富士急行にのってみたり富士五湖周辺をドライブしてみたりした学生時代のあれこれを思い出して、現在の立場を忘れそうになりました。昨今の教員不足により、やっと退職したのに常勤講師として小学校で担任し始めた春、初めての年休をこの旅に使いました。

一度退いた教職も、再び始めると不思議に変なアドレナリンに支配され頑張れてしまう自分にビックリ！！... そして思うことは、「教員としての原点は都留での学びである」ということです。

昭和～平成～令和と、どんどん学校の在り方に変容を求められていることを感じます。授業には、様々な機器が当たり前のように導入され、若い感性と進取の精神が必要になります。目を白黒させながら、そして冷や汗をかきながら毎日が過ぎていくのです。

だがしかし！変わることと変わらないこと、いや変えてはいけないことにも思い至ります。都留で学んだ「人間を探求する力」「子どもあっての教材」この基礎に支えられて全国で働く仲間を思います。

再雇用で、非常勤で、支援員として等々、様々な形で教育現場に臨む仲間に声を大にして言いたい。都留で培った自分で考え判断する力と「先生」とよばれる誇りを忘れず、学校の灯火を消さないで灯し続ける同窓の友でいましょう。

会　　長	西田　智貴	
副 会 長	但住　文章	秋田　憲一
監　　事	名越　　潤	
事務局長	谷口　俊則	

絆を胸にともに歩んで

岡山県支部長　**関野　茂夫**

学校現場は、授業のさまざまな場面でインターネットが活用されるようになり大きな変化をしていることに驚かされます。昨年都留を訪れ、そういった時代のニーズを取り入れながら進化する大学の姿を目の当たりにして頼もしさを感じます。

さて、令和５年度に４年ぶりに対面での総会並びに懇親会を開催しました。久しぶりに対面での開催とあって顔を合わせて近況や県支部の今後のあり方など忌憚のないお話をお聞かせいただきました。久しぶりの再会に、会うことのありがたさをしみじみ感じる時間でした。

参加者が減少気味の岡山県支部を今後どのように盛り上げていくかについて「総会・懇親会で自分の得意を披露する」「講演会をする」など参加したくなる楽しい会にする、PR のために「ホームページを立ち上げる」「県支部があることをアピールしていくこと」など貴重なご意見をいただきました。

そこで、令和６年度は、まず楽しい会づくりを目指して変化する大学を写真等で紹介することや得意なことの披露として、事務局をお手伝いいただいている金池兼広さんに朗読を披露していただくように計画しました。金池さんは、「おとなの音読」をテーマにカルチャープラザで講師をされている方です。

２月１日に会を開催し、みんなが楽しめる会にしていきたいです。多くの方々のご参加をお持ちしています。

下記の役員が現在の役員をしていただいている方です。

【役員】

顧　　問	原田直樹　菱川　徹
支 部 長	関野茂夫
副支部長	中野元雄
理　　事	岩城孝志　金池兼広　野﨑博子
監　　査	廣田巨史　竹内真二
事 務 局	金池兼広　竹内充子　野﨑博子

（令和６年２月11日　ピュアリティまきび）

今後ともどうぞよろしくお願いします。

「充実と発展」をめざす広島県支部

広島県支部長　**中西　正一**

令和６年５月24日に役員会を開き、総会へ向けての日程や活動内容等を協議した。参加者を増やすために、近隣の卒業生へ呼びかけることになった。

令和６年８月24日に広島市内のホテルにて支部総会を開催する。開会の挨拶後、学生歌「花のかげ」を参加者16名で歌い、懐かしい一場面となった。事業報告及び決算・予算案や新役員等について協議し、全て承認された。

引き続き、「学校現場の現状」と題して、働き方改革や教育実践の複雑化等について白石理事より講話があった。厳しい教育現場の中、改善に向けた取組みに期待したいと思う。「今も昔も子どもたちは、あまり変わっていない」と話され、明るい希望を抱くことができた。貴重な体験を提供くださった白石理事に感謝します。

今回、大阪から住田さん（昭和42年卒）が参加され、手作りのおもちゃを子ども達に指導している様子を話された。私達もお土産としていただいた。

昭和40年、大学祭で平和をテーマに原爆投下の悲惨さや三度繰り返さぬよう市民に訴えて市内を行進したことが思い出された。その時のリーダーの一人が住田さんでした。

あっという間に過ぎた３時間。中西正一作詞「星影のワルツ」（替え歌）を合唱し、閉会となった。

＜令和６年度役員＞

顧　　問	金久睦彦
支 部 長	中西正一
副支部長	田丸正実　山城義明
事務局長	二宮　正
理　　事	玉山　洋　猪原憲三　本宮達弘　土橋義信 池田桂子　島本智子　白石　隆　福間武志 枝長真智子　三京弘明
監　　査	五葉木輝正　奥窪尚昭
幹　　事	山中　護　田辺恵子　安藤正弘　末房朋子

↓住田さん手作りのおもちゃ

各地域での開催、今後の展望

徳島県支部長　**小倉　健司**

徳島県支部は、平成５年に結成され、令和６年度で31年目を迎えました。そのうち４年間は、コロナ禍のために、総会及び懇親会は、開催できませんでした。

令和６年度は、県内一堂に会しての総会及び懇親会を計画しておりましたが、日程調整等が合わず、県内各地域毎に集まっての小規模同窓会の実施になりました。

私達の集まりでは、まず、各々の現状を報告し合い、もっぱら健康面での話題が飛びかいました。そして、すぐに、皆が学生時代に戻り、懐かしい都留の思い出の場所や出来事に花を咲かせ、その当時にタイムスリップしたひと時でした。老若男女が同じ話題で盛りあがれるのも同窓会ならではの光景だと思いました。

今回、各地域での小規模同窓会を実施することで今まで参加できなかった人たちが、参加できたという利点もありました。

今後の展望としましては、できるだけ多くの方々が集まれる日に、総会及び懇親会ができるように、検討を重ねたいと思います。

次回は、令和７年７月下旬から８月中旬の開催を予定しています。たくさんの同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。

20周年を越えて、さらなる飛躍を

愛媛県支部副会長　**髙智　久子**

愛媛県支部では、11月30日に「にぎたつ会館」で令和6年度の県人会を開催しました。コロナ禍で令和元年以降開催を中止していましたが、令和5年に支部設立20周年を迎えたため、その記念も兼ねて行いました。谷川会長からは、都留文科大学の時代の変化に対応した新たな取り組みや、懇話会での在学生の真摯な姿等を伺い、発展を続ける大学の現状を知ることができました。

総会では、5年間の事業報告や会計決算、監査報告、役員改選の議事が承認されました。今回退任される副会長の杉田正高様に、長年の支部発展へのご尽力に対して、感謝状を贈呈しました。

懇親会では、参会者の自己紹介とともに、近況報告を行いました。世代を超えて繋がる都留での懐かしい思い出に花を咲かせ、親睦を深めました。また11月23日に愛媛で行われた全日本合唱コンクール大学コースの部で、見事金賞、文部科学大臣賞を受賞された都留文大合唱団の演奏の録音を皆で聴いて、その素晴らしい歌声に魅了されました。コンクール当日、支部からは、愛媛の思い出にとみかんを贈り、団員の皆様に味わっていただきました。

今回は10名の参加でしたが、情報交換を密にし、魅力ある活動を計画して、多くの参会を募ろうと考えています。20周年を越えて、今まで以上に充実した支部を目指して、さらなる飛躍を誓いました。

＜令和6年度支部役員＞

会　　長	谷川　忠孝
副 会 長	藤田　典子
	髙智　久子
	神野　　剛
事務局長	岡本　　賢
監　　査	泉　　秀樹
理　　事	山本　正則
	高橋　良光
	別處　正和
	河野　文俊
	坂本新一郎
	南條　敬子
	野井　　純

初めて島（壱岐市）で開催した同窓会総会

長崎県支部長　**平山　繁壽**

壱岐地区代表の西谷徳道氏と事務局の坂口隆氏の尽力で、私の念願だった島での同窓会総会・懇親会を壱岐市で開催することができました。

西谷徳道氏が住職をされているので、開催日は盆過ぎの8月17日（土）に設定し、壱岐市勝本町の「国民宿舎 壱岐島荘」で行いました。

島での開催なので台風の影響を心配していましたが、素晴らしい好天に恵まれて無事開催できたことにほっとしています。

参加者は、長崎地区から3名・島原地区から1名・壱岐地区から5名の計9名でした。数名の会員が、学校行事の都合や体調不良・家庭の事情等で参加できなくなり大変残念がっていました。

その中で、不思議な縁が2件ありました。

1件目は、私が壱岐市内の学校に勤務していた頃の職員の子供（その頃保育園児）が、都留大の卒業生で教員になって壱岐市内に勤務していたことです。

2件目は、西谷住職との縁で現役の都留大生も参加してくれたことです。おまけに女子ソフトボール部員で男子ソフトボール部のマネージャーも兼務しているとのことでした。私もソフトボール部員でした。また、この会には都留大ソフトボール部を創部した会員も出席していました。懇親会で、自己紹介・近況報告をしている中で分かった次第です。

また、結婚・子育てが一段落して、坂口先生の学校に臨採として勤務した際に同窓生であることが分かり、その後再度教員採用試験を受け合格した会員もいました。

料理も新鮮で美味しかったし、話も盛り上がり楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

最後に、私事ですが約10年間務めてきた支部長の役職を令和7年度から長崎市の会員に引き継ぐことになりました。大変お世話になりました。

＜令和7年度の役員＞（総会で承認）

支 部 長	太田尾透一郎
副支部長	江口匡彰・明石　仁・山口和也
事務局長	清水正道
監　　査	尾﨑威敏

熊本県支部近況報告

熊本県支部長　**杉水　　修**

熊本県支部では2年に一度の総会・懇親会がコロナ禍でしばらく開催できませんでしたが、昨年度5年ぶりに開催することができました。この時の役員改正で永田好文会長から、私が会長職を引き継ぎましたので、令和6年4月20日に都留文科大学で行われた同窓会理事会に初めて参加させていただきました。

大学を卒業して2年後に一度行ったことはありましたが、37年ぶりに訪れた都留の街はずいぶん変わっていて驚きました。特に大学周辺は駅や大きな店等ができて、とてもにぎやかな街並みになっていました。それでも前と変わらないところもあり、たいへん懐かしく思いました。

支部総会がない年も役員会は行っており、今年度も5人で役員会を開催しました。同窓会理事会の報告や、来年度の総会・懇親会の予定を確認した後、大学時代の話や互いの近況報告などでいつものように話に花が咲きました。

都留文科大学同窓会熊本県支部役員会

令和6年8月17日（土）

1　令和6年度都留文科大学同窓会理事会報告
　①「同窓会と在校生との懇話会」について
　②2025年都留文科大学創立70周年記念について
2　次年度の支部総会・懇親会について
　日時：令和7年10月26日（日）正午
3　同窓会報「第43号」の執筆者について
4　その他

支部総会・懇親会開催

宮崎県支部長　**取附　義弘**

宮崎県支部は、活動の主眼を会員相互の親睦と福利厚生を図ることに置き、さらに母校の発展に寄与することを目的に平成９年10月25日に結成しております。

今年度は、同窓会理事会時に行われた「在校生との面談会」の参加者に教員採用２次試験に向けての学習会を開催しました。初回は対面で、

模擬面接

・採用試験申込時の提出書類のコピーを使って模擬面接。

模擬授業

・二次試験で行う模擬授業（10分間程度）

２回目以降は、２次試験の模擬授業、グループワークでの内容が提示されたことを受け、受験生が行った動画を見て、アドバイス、改善点などを電話にてやり取りしました。

学習会の実施に当たり教育長様をはじめ門川町教育委員会に大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

また、令和７年度は隔年開催となる支部総会及び懇親会を予定しております。これまで総会にご都合が付かず、欠会を余儀なくされた方々に、来年（2025年）の次回総会でお会いできることを楽しみにしています。会員の皆様をはじめ、ご家族の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げましてご報告に代えさせて戴きます。

写真は前回総会時のもの

支部組織の拡充を目指して

鹿児島県支部長　**本田　武久**

鹿児島桂川会は、12月１日（日）鹿児島市内のレストランで役員会を開催しました。ここ数年かけて整理した会員名簿の確認と今後の支部活動の進め方を協議しました。個人情報保護等を充分踏まえながら会員名簿の拡充を図る為の連絡文発送等の具体策や時期等について協議を深めました。会員名簿の拡充と個人情報保護法との関係は非常に難しいものがあり、気をもみましたが、役員が知恵を出し合い乗り越えることができそうです。

令和６年２月を目途にしていた会員名簿の完成でしたが、県教職員録・大学本部の名簿、役員等の独自把握の消息等を統合的に参考にしながら、個人情報保護法に留意して令和６年度内の目標達成に努めていくことを確認しました。会員名簿の整理・拡充が図られた後、定例の総会開催を予定しています。

次回の本部発行「同窓会報」第44号会報には、これまでにない参加者が写った支部総会の様子が掲載できることを信じて活動を推進していきたいと思っています。

会　長　本田　武久（昭和43年度卒）
副会長　大山　典男（昭和45年度卒）
副会長　水流　広之（昭和55年度卒）
事務局　橋野三智男（昭和58年度卒）
事務局　中村　智子（平成元年度卒）
監　事　室屋　　綾（平成２年度卒）
監　事　平澤　泰明（昭和41年度卒）

懇親会の開催

沖縄支部事務局長　**親川　光倫**

沖縄支部の活動は、事務局長の至らなさから例年低調であり、総会を開催する度に提案してきた、「同窓生同士の交流会を持つ」ということが、ずっと実現できていなかった。

これは、漠然と、「より多くの方に呼びかけて、世代間の交流が出来たら素晴らしい」という考えに基づいて開催を模索したためであった。

多くの方に声をかけるほど参加者数の見込みが難しく、人数やそれぞれの参加意欲の高低が不確定なまま会場や開催形態を考えても判断がつかず、いつも頓挫した。

今回は、割り切って40くらいの私と30に届かない崎浜君がそれぞれの近い世代にだけ声をかけて懇親会を持った。その数わずか６名だったが、やはり同窓の絆は強く、大学や学生生活での思い出、それぞれの現況、同窓会の展望まで語り合って夜遅くまで話が尽きなかった。

このような会が開きたかった。今後、出来れば多くの同窓生が参加できる形に徐々に広げていけたらと思う。

未だこのような状況であるが、本学の発展と卒業生のご活躍に寄与できるように、この微力を尽くしていきたい。

体　育　会　紹　介

令和６年度　体育会会長　中川　翔太

都留文科大学体育会では、高崎経済大学との対抗戦「第48回鶴鷹祭」を始め、「関東甲信越大学体育大会」や都留市主催「つる湧水の里ランフェス」に体育会から多くの団体が参加するなど、本年度も年間を通じて充実した活動を実施することができました。コロナ禍によってやや希薄となってしまった人との繋がりを、これらの活動によって日々少しずつ取り戻しているように感じます。こうした活動を行うことができるのも同窓会員の皆様方による日頃のご支援によるものです。心より感謝を申し上げます。

鶴鷹祭では惜しくも総合優勝を逃しましたが、学校の垣根を越えた交流が数多く見られ、他に類を見ない学校単位で行われる対抗戦はスポーツ交流に留まらず、大学生活の貴重な経験になったと実感しています。その他の大会におきましても各団体が入賞等の好成績を収めております。

体育会では皆様にさらなる吉報をお届けできるよう勉学・スポーツに精進して参ります。今後とも体育会をよろしくお願いいたします。

令和６年度　硬式庭球部主将　山浦　武琉

穏やかな日の光が短くなり、肌を刺す冷気が強まってくる今日この頃でございますが、都留文科大学の同窓会の皆様におかれましてはお身体にお変わりなくお過ごしでしょうか？

私達硬式庭球部は男子が「山梨学生選手権大会」、女子が「個人戦で関東学生テニス選手権大会で本戦出場」と目標を定め日々練習に励んで参りました。令和６年度では15人の１年生が入部し、合計20人で高い意識を持ちながら鶴鷹祭やその他大会に参加し目標を達成することができた部員もおりました。来年度は更なる飛躍を目指し、準備をしていく所存です。

同窓会の皆様には日頃よりご支援いただき心より感謝申し上げます。今後ともご協力、応援のほどよろしくお願いいたします。

令和６年度　男女柔道部代表　金城　有星

冬枯れの季節を迎えましたが、都留文科大学同窓会の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

私たち男女柔道部は、勝てる柔道を探求しながらも精神鍛練にも重きを置きつつ、日々稽古に励んでおります。今年度は新入生も入部し、数年ぶりに都留文科大学チームとして関東甲信越大会団体戦に参加することができました。経験者１名、未経験者２名という苦しい戦いでしたが、山梨大学への出稽古、良き指導者に出会えたことなど、今年から新たに始めた取り組み等のお陰で全員全敗を避けることができました。一方で、部員数の減少や試合経験の不足など課題も浮き彫りになり、昇段審査や地域の道場への出稽古で部員の試合勘を養っております。又、審判資格を取得した部員も在籍しており己の鍛錬に留まらず、学内はもちろん、山梨県全体における柔道活動の活発化を目指しています。

来年度こそは団体、個人ともに好成績を残せるよう、これからも頑張りますので、何卒ご声援宜しくお願いいたします。

文　化　会　紹　介

令和６年度　文化会会長　山田　　樹

同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度の文化会におきましては、文化会所属である合唱団が11月23日（土）に愛媛県県民文化会館で行われました、「第77回全日本合唱コンクール全国大会」にて金賞、文部科学大臣賞を受賞するなど大変優秀な成績を収めております。これは現役の力の他、先輩方のお力添えの賜物と、深くお礼申し上げます。また、多くの所属団体の活動の幅が広がり、桂川祭など日ごろの成果を発揮する場面が増え、活気溢れる１年となりました。

文化会本部におきましては、令和７年度に向けて引継ぎが完了し、新体制となりました。文化会所属の各団体についても新体制に向けて、各団体の発展を目標に、積極的に活動を行いたいと思います。

今後とも都留文科大学同窓会会員の諸先輩方には、ご指導とご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

令和６年度　写真部代表　朝倉　　遼

写真部では、毎週火曜日の部会のほかに不定期で催行する部旅行や文化部・サークルの発表会等の依頼撮影を行っております。今年度は十人十色の新入部員により、人物撮影やフィルムカメラの使用など活動の幅を広げることができました。また、世界文化遺産・富士山の近くに住んでいるという地の利を活かし早朝に豪壮なご来光を撮りに行くなど、写真好きとして未だ見ぬ景色を探求する充実した時間を過ごすことも叶いました。毎年恒例の桂川祭の出展では、各部員が魂を込めた風景写真や星空、テーブルフォトにとどまらず大学周辺に棲みついている猫や動物園の哺乳類、実家のペットから奈良公園の鹿に至るまでのユニークな動物写真を取り上げることとしました。展示は無事好評を集め、欣快の至りでございます。

これからもルールの遵守や安全の確保には最大限留意しつつ、写真、又撮影活動そのものの魅力を追求してより良い画を作るよう、部員一同精進して参りますので、今後とも写真部を宜しくお願い致します。

令和６年度　シネマ･ファクトリー代表　坂東　小太朗

映画は特別な経験である。

私たちは、例えば小説を読むとき、それが文字による一連の嘘であることを知っている。絵画を目前にするとき、それが現実にはないことを知っている。「フィクション」の本質が媒体を問わず「嘘」であるということを、やはり誰しもが知っている。

けれど映画は格別だ。それはときに役者の演技で語り、流れる音楽で魅せ、選択されたショットによって強固な実在性を獲得する。画角が緊張を煽り、音響が高揚を誘うその瞬間、役者はキャラクターへと変貌を遂げ、息遣いまでもが耳元へ届く。するとあまりに弱い私たちの現実は画面の内へ溶け去り、映画という虚構が現実を覆い隠す。

映画の魔術はこれからも私たちを魅了してやまないだろう。そして、ひょっとすれば映画は「撮る」こと、「演じ」てみること、あるいは「読む」ことで新しい姿を魅せてくれるかもしれない。それはただ「観る」よりも、きっと愉快なことだ。

私たちは映画という嘘が特別に好きだ。

私たちはこれからも制作行為を通じてその魅力を感じ続けていたい。

第28回都留文科大学同窓会総会のお知らせ

○日時　2025年8月2日(土) 午後2時
○場所　都留文科大学

同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より同窓会の活動に御理解ご協力いただいておりますことに感謝申し上げます。

日本全国に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も令和５年５月８日をもって、「第５類感染症」に分類され、少しずつ日常が戻ってきています。これまで制限がかかり、中止を余儀なくされていた「理事会」や「在学生との懇話会」も再開され、各支部においての事業も工夫しながら再開されていることと拝察いたします。

さて、令和７年度は、同窓会総会の開催が予定されます。また、大学は創立70周年の節目に当たり、これまでの本学の歴史を鑑み、諸先輩の輝かしい業績を称えるとともに、学生・教職員・同窓生・地域の方々が持つ多様なアイデアや才能が大学の未来を豊かに彩っていくことを目指して設立された都留文科大学創立70周年記念事業期成会は、記念事業の推進に取り組んでおります。

第28回の同窓会総会には、全国から集まっていただく会員の皆様に良い思い出が残せるように、今回も８月１日～５日まで行われる富士五湖の花火大会（但し2024年８月４日の精進湖涼湖祭は中止）の開催される８月上旬に行います。同窓会総会に参加して昔を語り、夜は打ち上げ花火を見て帰りませんか。

できる限り会員同士連絡を取り合い、大勢の参加を心よりお願い申し上げます。一人でも多くの同窓会員が出席して、盛大な総会が開かれることを執行部も大学当局も切に願っております。よろしくお願い致します。

氏名・住所変更はホームページ・E-mail・郵便はがき・FAX でお願いします

結婚・転居等により住所や氏名等を変更された方は、次の必須事項及び変更内容を、いずれかの方法によりお知らせください。郵便はがきでの氏名・住所等変更届の場合は、はがきは自己負担でお願いします。

1　ホームページ

⑴ホームページより[卒業生の方へ]→[同窓会]→[同窓会氏名・住所等変更届]にて行ってください。なお、詳しい変更方法については、ホームページ上に掲載してありますので、ご参照ください。
都留文科大学ホームページ
URL：https://www.tsuru.ac.jp

⑵ホームページ上にて氏名・住所等変更届けを行う際には、次のパスワードが必要となります。
パスワード：tbdh2206（半角英数）
※同窓会会員以外による不正使用がないよう、パスワードの管理にはくれぐれもご注意ください。

2　E-mail にて送信
E-mail：dousokai@tsuru.ac.jp

3　FAX・郵送
〒402-8555　山梨県都留市田原3-8-1
都留文科大学同窓会　宛
TEL　0554-43-4341　内線206
FAX　0554-43-4347

◎必須項目	○変更内容
氏名(フリガナ)／旧姓	現住所／電話番号
卒業年・学科	勤務先名
生年月日	勤務先住所／電話番号
	勤務先の役職

※住所移転等で同窓会報がお手元に届かない場合がありましたらご連絡ください。

令和５年度　都留文科大学同窓会会計収支決算書

◆収入の部　（単位：円）

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備考
入会金	4,230,000	0	4,230,000	4,230,000	846人×　5,000円＝4,230,000円
終身会費	8,460,000	0	8,460,000	8,460,000	846人×10,000円＝8,460,000円
繰越金	5,021,325	0	5,021,325	5,021,325	令和４年度繰越金
雑入	60,000	0	60,000	50,514	預金利息、理事会懇親会御祝儀
収入合計	**17,771,325**	**0**	**17,771,325**	**17,761,839**	

◆支出の部　（単位：円）

項目	当初予算額	補正予算額	予算現額	収入済額	備考
事業費	**11,170,000**	**0**	**11,170,000**	**8,436,198**	
会報発行費	3,800,000	0	3,800,000	3,756,558	同窓会報第42号（令和５年度発行）
支部助成金	3,800,000	0	3,800,000	3,660,000	東京　神奈川　山梨　長野　静岡　愛知 720,000円(@120,000円×６支部) 北海道　岩手　宮城　千葉　富山　石川　兵庫 770,000円(@110,000円×７支部) 栃木　群馬　福井　岐阜　三重　大阪　岡山　広島　徳島 900,000円(@100,000円×９支部) 青森　山形　京都　和歌山　島根　愛媛　長崎　鹿児島　沖縄 810,000円(@　90,000円×９支部) 滋賀　鳥取　熊本　宮崎 320,000円(@　80,000円×４支部) 奈良　高知 140,000円(@　70,000円×２支部)
支部設立準備金	300,000	0	300,000	0	
新入学祝費	700,000	0	700,000	629,640	新入生記念品
支部旗作成費	120,000	0	120,000	0	
教員採用試験学習会費	450,000	0	450,000	140,000	富山　宮城　千葉　兵庫
被災地支援活動費	2,000,000	0	2,000,000	250,000	支援金（宮城　石川）
会議費	**2,800,000**	**0**	**2,800,000**	**2,202,009**	
総会費	800,000	0	800,000	353,149	
理事会費等	2,000,000	0	2,000,000	1,848,860	
同窓会本部費	**2,550,000**	**0**	**2,550,000**	**1,641,004**	
事務費	250,000	0	250,000	223,431	
運営費	1,850,000	0	1,850,000	1,157,158	事務賃金負担金700,000円含む
慶弔費	340,000	0	340,000	150,415	入学・卒業式祝い生花代ほか
本部役員活動費	110,000	0	110,000	110,000	令和５年度役員報酬
積立金	**1,000,000**	**0**	**1,000,000**	**2,000,000**	大学創立記念事業基金
予備費	**251,325**	**0**	**251,325**	**0**	
支出合計	**17,771,325**	**0**	**17,771,325**	**14,279,211**	

（収入済額）　（支出額）　（収入・支出差引残高額）
￥17,761,839　－　14,279,211　＝　3,482,628

◎令和５年度　基金積立及び取崩状況

◆財政調整基金積立金額	0円
◆大学創立記念事業基金積立金額	2,000,000円
積立金合計額	2,000,000円
◆財政調整基金取崩金額	0円
◆大学創立記念事業基金取崩金額	0円
取崩金合計額	0円

令和５年度末　基金の内訳

財政調整基金	5,648,410円
大学創立記念事業基金	38,526,986円
計	44,175,396円

都留文科大学創立70周年記念事業

都留文科大学は、昭和28年４月に創設された山梨県立臨時教員養成所を起源に、昭和30年４月には、都留市立短期大学を設置し、さらに昭和35年４月には、４年制の都留文科大学へと移行、平成21年４月に法人化され、以来、多くの変遷を経て、令和７年度に短期大学設置から数えて、70周年の節目の年を迎えます。

これまで、本学では伝統である教員養成や強みである地域との連携を続ける中で、多様な人材を輩出してまいりました。急速な少子化が進む中で、本学が選ばれる大学、魅力あふれる大学となるため、この創立70周年を機に、改めて教育の質の維持向上に全学的に取り組み、本学の教育研究活動を周知するとともに、未来に向けた確固たる地位を維持していくため、各種事業を計画しております。併せて、学生が学ぶ環境を整備するため、今回の70周年記念事業を通して、多くの同窓生が学び励んだ１号館の大規模改修工事を実施いたします。

このような新たな大学像を実現するために、教職員だけではなく、在校生や同窓生、本学を支えてくださる地域の方々など、多くの皆様にこの事業に参加していただきたいと思います。

１号館改修後の１階エントランスのイメージ

★最新のお知らせ･イベントは
こちらのQRをチェック!

ホームカミングデー

１号館改修工事直前に１号館ラストキャンパスツアーを行います。久しぶりに母校を訪れてみませんか？

ぜひこの機会に母校を訪れ、思い出の１号館（昭和41年完成）をご覧ください。

ご参加をお待ちしております！

［開催日］　令和7年 4 月20日（日）
［場　所］　都留文科大学
［対象者］　本学同窓生（卒業生）、地域の方々など
［実施内容］学長挨拶、特別講演、キャンパスツアー（１号館）、親睦会など
◎特別講演　【講演者】遠見　信
【題　目】「メディア」という妙薬と劇薬!?
～子どもとメディアの歴史から～
［参加費］　無料
［お申込み］70周年サイトよりお申し込みください。（右記QRコード）
※お申し込みはお電話、メールでも承ります。
［申込窓口］都留文科大学　事務局　経営企画課　企画広報担当
Tel：0554-43-4341㈹　／ e-mail：kouho@tsuru.ac.jp

【個人申込】　**【団体申込】**

記念式典

70周年記念式典・講演会及び祝賀会を開催します。

全国大会で多くの入賞歴のある合唱団による学生歌「花のかげ」や管弦楽団の演奏、ストリートダンスサークルによるダンスなど、在学生によるパフォーマンスを見て、本学で学んだあの頃を思い出しませんか？

記念講演会では、日本文学研究者ロバート キャンベル氏による講演を予定しておりますので、多くの同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。

記念講演会終了後は、祝賀会を予定しておりますので、本学教職員や同窓生同士などで語り合い、久し振りの都留の夜を楽しみましょう！

ロバート キャンベル氏

［開催日］　令和7年 10月11日（土）
［場　所］　都の杜うぐいすホール
［対象者］　本学学生、同窓生、市民などどなたでもご参加いただけます。
［参加料］　無料（祝賀会参加者は参加料を徴収する予定です。）

記念誌発行用資料借用のお願い

70周年記念誌を作成するにあたり、同窓生の皆様が在学中に撮影された写真をお借りしたく存じます。大学の思い出やキャンパスの風景など、公開可能な写真がございましたら、ぜひご提供ください。

写真には簡単な解説を添えていただけると助かります。ご提供いただいた写真は記念誌の他、今後開催予定の企画展示やデジタルアーカイブで公開する場合がございますので、予めご了承ください。（※掲載されない場合もございます。）また、他の方が写っている写真の場合は、公開の許諾を得たものをお送りください。

◎写真の提供方法

データの場合：右記のアドレスにメール送信
（容量が20MB以上の場合はご相談ください。）

現物の場合：郵送や持込の際は、氏名、連絡先、卒業年度、学科等を記入の上、ご提供お願いします。
現物は2026年度中（2026年４月～翌年３月）にご返却いたします。
返却の必要が無い場合には、「都留文科大学への寄贈希望」の後にご署名をいただいた紙を同封していただければと存じます。

【郵送先・持込・問合せ先】
〒402-8555　山梨県都留市田原3-8-1
都留文科大学地域交流研究センター　70周年記念誌担当
TEL：0554-43-4341
E-mail：70th_kinenshi@tsuru.ac.jp

1 号館　～思い出の校舎にありがとう～

(2025年度改修工事着手)

全景

1F　ロビー

1F　ロビー西側廊下

1F　1110教室

2F　1215教室

3F　1305教室前廊下

4F　1405教室

4F　1401 教室前廊下